

2019年3月期 決算説明会

2019年5月27日

 日本カーバイド工業株式会社

アジェンダ

1. 会社概要

2. 2019年3月期決算の概要

3. 2020年3月期通期業績予想

4. 中期経営計画

1. 会社概要

会社概要

(2019年3月31日現在)

商号	日本カーバイド工業株式会社 (NIPPON CARBIDE INDUSTRIES CO.,INC.)
本社	東京都港区港南2丁目16番2号
設立	1935年10月
資本金	7,034,055,242円
発行済株式数	8,194,029株
連結従業員数	3,529名
事業内容	電子・機能製品事業、フィルム・シート事業、 建材関連事業、エンジニアリング事業

経営理念－ミッション・ビジョン・価値観－

Mission

私たちのミッション

技術力で価値を創造し、
より豊かな社会の発展に貢献する。

Vision

私たちのビジョン

キラリと光る、価値ある企業グループ

Values

私たちが大切にしている価値観

誠実であること

Sincerity

奉仕すること

Service

協力すること

One-NCI

創造すること

Innovation

沿革①

1935 創業

カーバイドとは炭素と金属元素の化合物（化学式CaC₂）のことです。カーバイドは石灰岩から得られる生石灰とコークス（炭素）を高温で熱して生成します。良質な石灰岩を安定的に調達でき、また生成に必要なエネルギーを豊富な水資源による水力発電から得られる富山県魚津市に1935年、日本カーバイド工業は創立されました。当時、カーバイドを原料としたアセチレン誘導工業は化学工業の最先端でした。

1940～60's 自社技術の深化・拡大

- ・ 現：株式会社三和ケミカル設立、化学・医薬品製品の製造・販売を開始
- ・ 東京証券取引所に株式上場
- ・ 早月工場（富山県滑川市）操業開始
- ・ 大阪証券取引所に株式上場
- ・ メラミン樹脂製品の製造・販売を開始
- ・ 機能樹脂（粘・接着剤）の製造・販売を開始
- ・ ビニフレーム工業株式会社設立、建材関連事業に進出
- ・ 包装材料の製造・販売を開始
- ・ ダイヤモンドエンジニアリング株式会社設立、エンジニアリング事業に進出

1970～90's 新規事業・海外展開の拡大

- ・ マーキングフィルムの製造・販売を開始
- ・ 株式会社北陸セラミックに資本参加、電子材料（セラミック基板）事業に進出
- ・ タイにTHAI DECAL CO.,LTD設立、ステッカー事業を開始
- ・ タイにELECTRO-CERAMICS (THAILAND) CO.,LTD.設立、セラミック基板事業を展開
- ・ プリント配線板事業を開始
- ・ ニッカポリマ株式会社設立、米国および欧州に販売拠点を設置（米国にNIPPON CARBIDE INDUSTRIES (USA) INC.、ドイツにNIPPON CARBIDE INDUSTRIES (EUROPE) GmbH、フランスに現：NIPPON CARBIDE INDUSTRIES FRANCE S.A.S.、スペインに現：NIPPON CARBIDE INDUSTRIES ESPANA S.A.、オランダにNIPPON CARBIDE INDUSTRIES (NETHERLANDS) B.V.を設立）、再帰反射シート事業に進出
- ・ インドネシアにPT ALVINY INDONESIA設立、ステッカー及び建材関連事業を展開
- ・ 中国に現：恩希愛(杭州)薄膜有限公司設立、再帰反射シート事業を展開
- ・ ベトナムにNCI(VIETNAM)CO.LTD.設立、ステッカー事業を展開
- ・ 米国にNIPPON CARBIDE INDUSTRIES(South Carolina)INC.設立、トナー用樹脂事業を開始

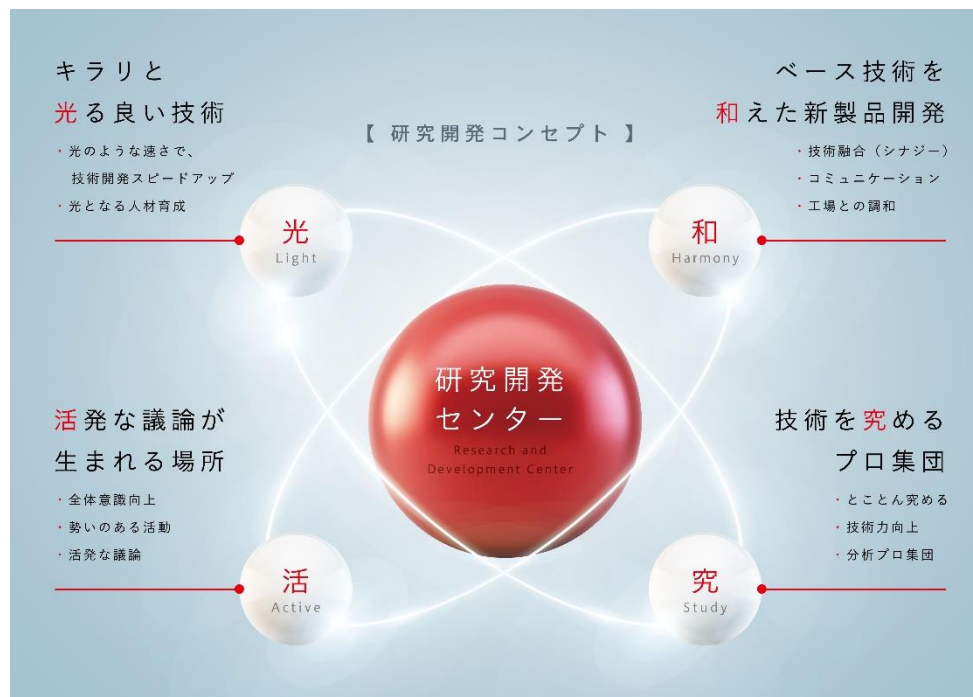
沿革②

2000's～ 選択と集中

- ・ インドにNIPPON CARBIDE INDIA PVT.LTD.設立、ブラジルにNIPPON CARBIDE INDUSTRIA DO BRASIL LTDA. 設立、ステッカー事業を展開
- ・ ニッカポリマ株式会社解散、再帰反射シート事業の効率化を進める
- ・ プリント配線板事業からの撤退
- ・ 国内4か所にあった研究拠点を研究開発センター（富山県滑川市）に集約



研究開発センター
© 株式会社エスエス/島尾望

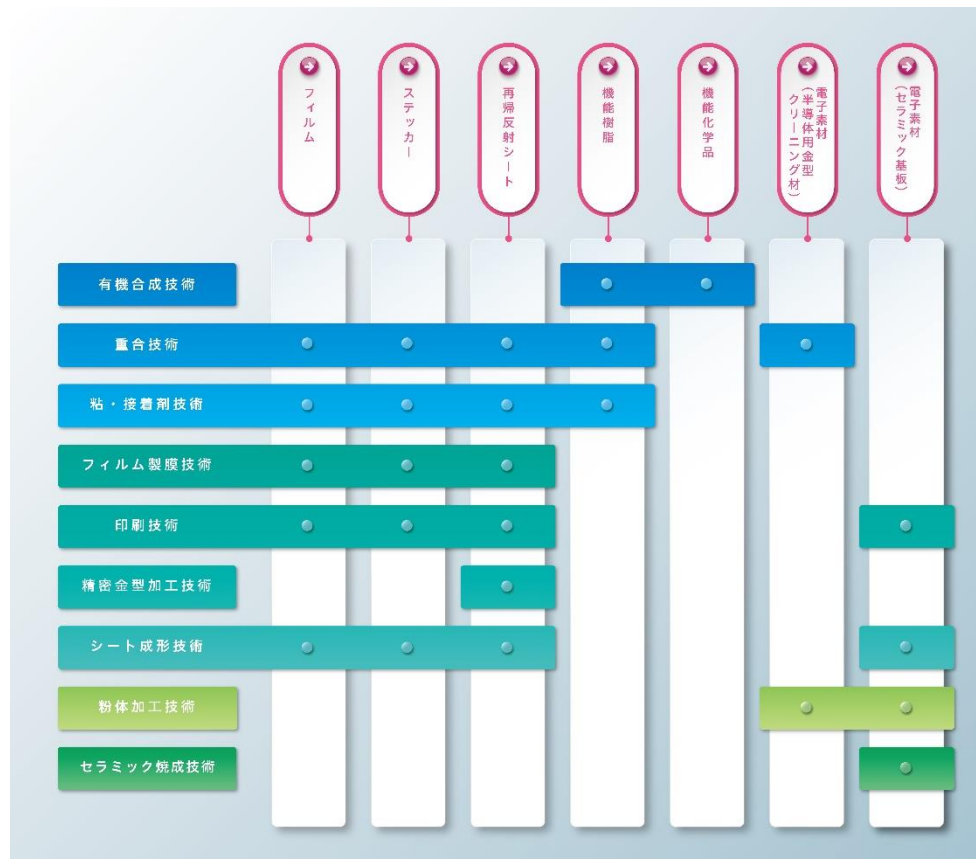


2019～ 成長路線へ

新・中期経営計画をスタート。
更なる進化を目指して、コア技術の深化やグループのさまざまな専門技術の融合によって、新しい可能性に挑戦しつづけていきます。

私たちの技術

カーバイドと石灰窒素、およびその誘導工業からスタートした日本カーバイド工業は、化学工業の発展とともに事業内容を広げて多様な製品を生み出してきました。コア技術である樹脂重合技術、フィルム・シート技術、焼成技術を軸に、社会の求める製品を作り続けています。



事業セグメント

フィルム・シート事業

フィルム
ステッカー
再帰反射シート



電子・機能製品事業

機能化学品
機能樹脂
電子素材



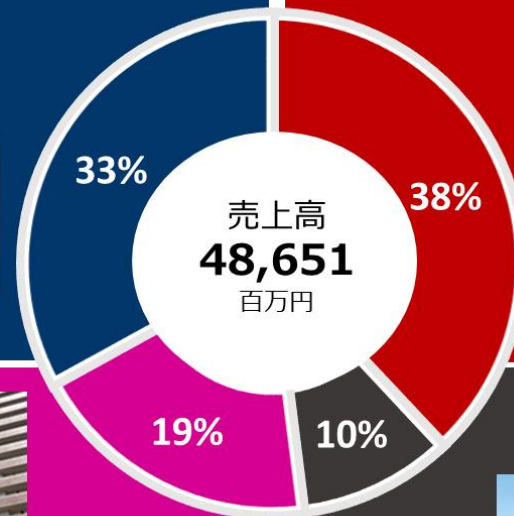
建材関連事業

ビル・住宅用アルミ建材
内装建材用プラスチック押出製品



エンジニアリング事業

産業プラントの設計・施工



※売上高および内訳は2019年3月期実績

電子・機能製品事業【機能化学品】

創業当時から培った技術とノウハウで、電子材料をはじめとした様々な原料や薬品を提供

医薬品や農薬、電子材料や特殊塗料など、人々の暮らしに広く行きわたる、さまざまな製品のベースを担う化学品を提供。社名でもあるカーバイドからはじまり、多様なニーズに応えながら培ってきた知識と経験、そして技術力を活かしながらこれからも人々が求め、暮らしが求める新しい価値を、「機能化学品」によって生み出し続けていきます。



商品の一部となる製品を提供する主な分野

電子材料

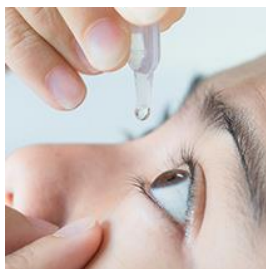
特殊材料

農薬

金属表面処理剤

医薬品

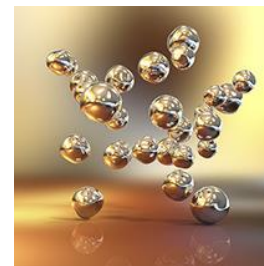
生化学



点眼薬、血栓溶解剤、
青あざ治療薬など、
医薬品の原体を開発



萌芽や発芽を促進する
植物成長調整剤
『CX-10』で、高い
シェア



長年培ってきた脱金
属技術は、組成を変
えずにppb単位まで
脱金属化が可能

社名にもある「カーバイド」由来の化合物を中心に、電子材料、特殊塗料、農薬、金属表面処理剤、医薬品、生化学など多様な分野に製品を供給しています。

「CX-10」は、落葉果樹の発芽促進を目的とした植物成長調整剤の約70%のシェアを誇ります。（当社調べ）

電子・機能製品事業【機能樹脂】

あらゆるニーズや商品の「粘着・接着させる」にお応えする、高機能な粘・接着剤

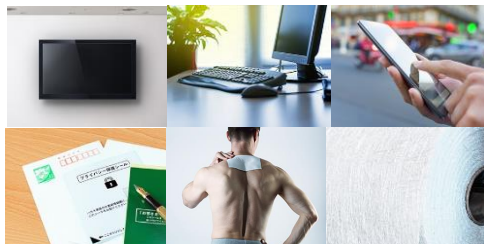
自動車から、テレビやスマートフォン、紙や塗料に繊維、さらにはパップ剤や化粧品まで。

私たちがふだん目にする、使う、身につける、多くの“モノ”を形づくるために、当社の多種多様な「粘・接着剤」が使われています。時代とともに変化していくさまざまなお客様のニーズにお応えできるよう、今後も製品バリエーションをいっそう充実させていきます。



粘・接着剤

幅広い用途に粘着・接着目的で使用される製品を提供



テレビ・スマートフォン・タブレット・PCなどの液晶の偏光板に使われる光学フィルム用粘着剤／個人情報保護シール・宅配ラベル・付箋の粘着剤／パップ剤の粘着部分の粘着剤など



食器用 メラミン樹脂

軽くて丈夫、熱に強く色付けしやすいメラミン樹脂。学校や病院、企業の食堂や回転寿司店などで使われる食器の材料を提供



トナーインク・塗料の原料

塗料、トナー用、コーティング材、繊維加工などの樹脂

当社は特に粘着（すぐに「つく」ことができ、「剥がす」こともできる）に高い技術を誇ります。お客様のニーズに合わせて製品を開発していくビジネスモデルです。また、「ドラッグマスターファイル（DMF）に登録している製品もあり、医薬品向けにも提供しています。

電子・機能製品事業【電子素材】

半導体向け金型クリーニング材

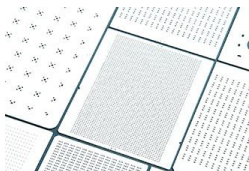
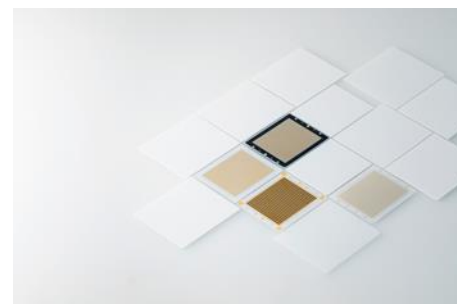
半導体の製造において、樹脂汚れを除去する「金型のクリーニング材」として当社が開発したメラミン樹脂が活躍しています。半導体業界では「ニカレットECR」という製品名で広く認知されており、確かなクリーニング性能に加え、金型を取り外すことなく洗浄できる優れた作業性から、半導体製造に“なくてはならない存在”という高い評価をいただいています。



半導体向け金型クリーニング材の販売は、世界トップクラスのシェアを誇ります。（当社調べ）

セラミック基板

暮らしの身近にある、どの電子機器にも必要不可欠な電子部品に使われる「セラミック基板」。各種電子部品のベース基板として、あらゆる電子機器に使用されています。



**チップ抵抗器用
アルミナセラミック基板**
基板の薄板化と精密加工に高い技術力



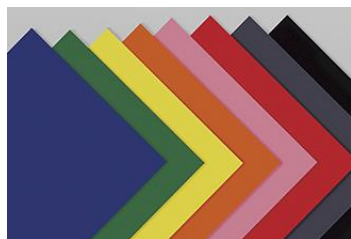
グリーンシート
チップ抵抗器用以外の新たな用途に供するためのセラミック基板材料

当社は、市場の黎明期から40年にわたり製品を供給する、市場のパイオニア的存在です。アルミナ原料の配合から焼成、印刷まで全ての工程を有していることが強みです。基板の薄板化と強靱性に高い技術を有し、高機能チップ抵抗器用アルミナセラミック基板では世界トップクラスのシェアを誇ります。（当社調べ）

フィルム・シート事業【フィルム】

街の彩りから、過酷な環境下のラベルまで。優れた耐候性の高機能フィルム

街で思わず目を引く看板、電車の車体などにも使われる「マーキングフィルム」は、とりどりのカラーとタフな耐候性が特徴。「カラー透明フィルム」や「半透明フィルム」は光源によって鮮明に浮かびあがり、昼夜問わず、カラフルに演出することができます。その他、自動車のラベルにも使用される「レーザーマーキングラベル」、食品の「包装用フィルム」など、毎日をより豊かに彩る、使用シーンや目的に応じた特徴あるフィルムを数多くお届けしています。



マーキングフィルム

耐候性に優れたカラー塩ビフィルムで、「貼る塗料」とも言われます。鉄道・バス・トラックなどのラッピング／自動車の塗装代替／店舗看板／屋内・屋外看板／屋外広告などに使用



レーザーマーキングラベル

シリアルNo.等の個体情報を必要とする認証ラベルや銘板ラベル、生産物の工程管理や製造履歴を残すラベルに最適な材料



包装用フィルム

スーパーや飲食店などで使用される食品包装フィルム

- お客様のご要望に合わせた色を再現する調色技術と粘着剤の自社開発技術を組み合わせ、用途に適した高耐久性のマーキングフィルムを提供しています。
- 優れた印字性、耐熱性、耐久性を持ち、用途により自己破壊性を付与することもできるレーザーマーキングラベルは、国内では当社のみが提供しています。

フィルム・シート事業【ステッカー】

海外5拠点の製造ネットワークで、車体を飾るグラフィック印刷を提供

東南アジアをはじめ世界各国で、ドライブに、通勤の足にと、多くの人の生活に欠かせないオートバイ。各国の文化や好みにあわせながら、車体を鮮やかに飾る「グラフィックステッカー」や「3Dエンブレム」を提供しています。タイ、ベトナム、インドネシア、インド、ブラジルに製造拠点を置き、拠点同士がしっかりと連携することでそれぞれが持つ力を最大限に発揮。その技術は自動車や農機、ショベルカーなどの大型建機、さらには電化製品などにも広く役立てられています。



グラフィックステッカー
塩ビフィルムを用いた高い柔軟性で曲面に貼り付け可能。高い耐候性と豊富なカラーバリエーション



3Dエンブレム
曲面追従性に優れ、多彩な色や形状など豊富なバリエーションに対応可能。樹脂成型品には困難なバラ文字にも対応

オートバイ、自動車の装飾用ステッカー、ラベル、エンブレム製品を東南アジアを中心として世界各国に展開しています。海外工場はタイ、ベトナム、インドネシア、ブラジル、インドの5拠点到展開しており、それぞれの拠点が連携することで高い機動力を発揮します。



フィルム・シート事業【再帰反射シート】

世界の道路で、安心と秩序の確保に貢献

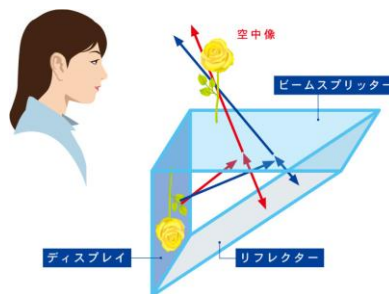
再帰反射とは、光が入った方向に再び帰る反射現象のこと。これにより「再帰反射シート」を使用した道路標識が照らされると夜間でも明るく浮かび上がり、安全と秩序をドライバーへ呼びかけます。“全天候、24時間、明るい安心を”。



道路標識・案内標識・警戒標識・規制標識・指示標識・補助標識・トラックなどの車体マーキング・自転車・全面反射ヘルメット・工事現場の看板・駅名標・広告のサイン・ヘリサイン・海外のカーナンバープレートなど

空中ディスプレイ用リフレクター

反射材を用いて、鮮明な空中ディスプレイを実現



20年以上の長きにわたり、自社開発した封入レンズ型、カプセルレンズ型、プリズム型の各種再帰反射シートを一貫生産する中で、道路標識、屋外看板、ナンバープレート、トラックテープ、工事用看板など多様な市場に製品を提供しています。

建材関連事業

ビル・住宅用アルミ建材

ビル・住宅用の手すりやカーポートとして使用されるアルミ建材です。



内装建材用プラスチック製品

内装建材製品・電機製品・ファニチャー製品・車輛・機械など幅広く使用されています。



ビニフレーム工業は、プラスチック建具・襖のパイオニアメーカーとして誕生、その後日本のアルミ産業の歴史とほぼ軌を一にして、アルミ建材メーカーとして発展してきました。

エンジニアリング事業

産業プラントの設計・施工

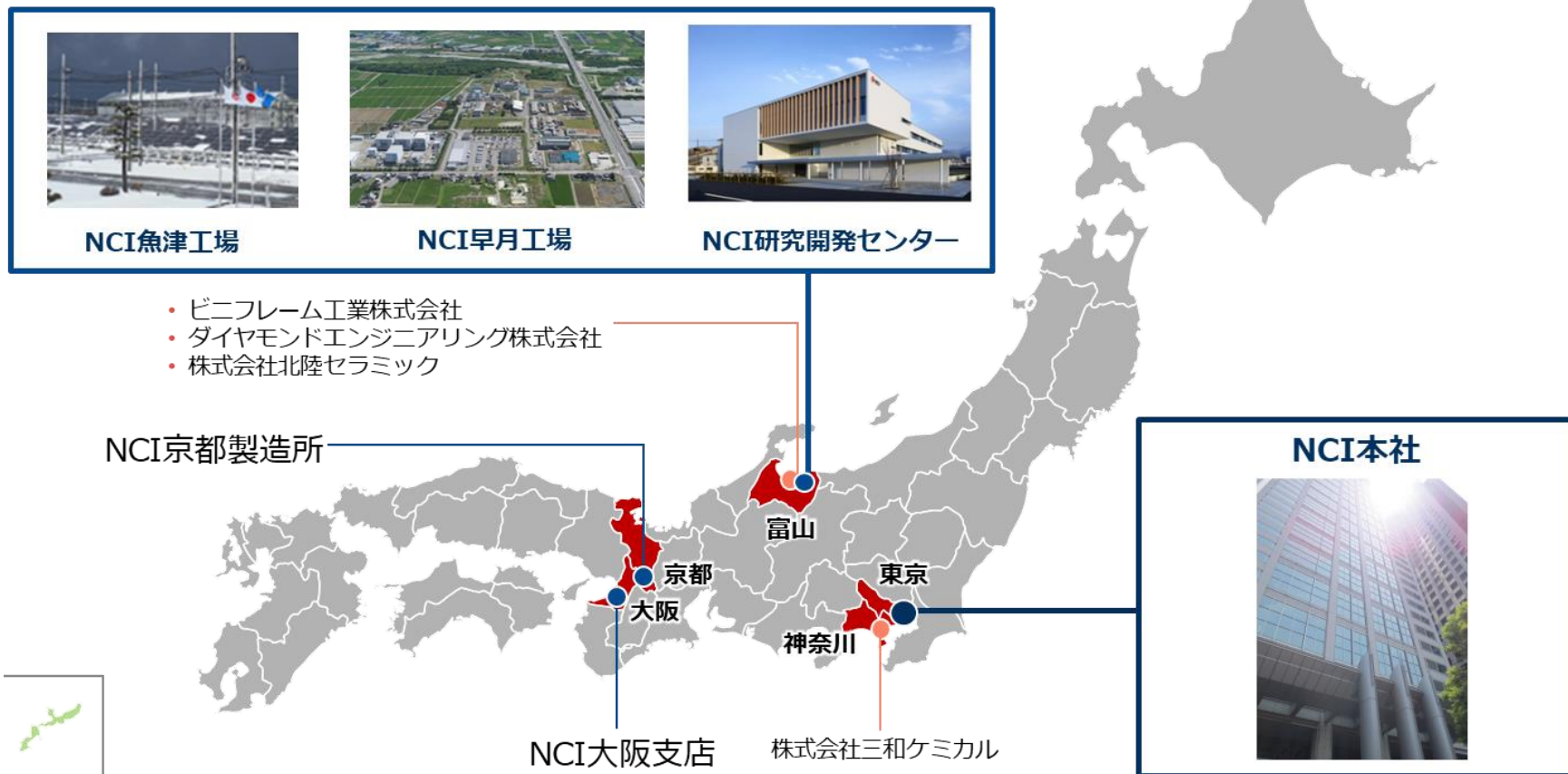
鉄鋼精錬と粉体ハンドリング技術を有し、鉄鋼・化学・環境プラントの設計や施工を行っています。



永年培ってきた鉄鋼精錬と粉体ハンドリング技術は高い評価を得ており、国家研究開発プロジェクト実証機である酸素吹石炭ガス化複合発電実証試験設備も受注しています。

国内ネットワーク

国内 6拠点（本社・支店1拠点・工場2拠点・製造所1拠点・研究所1拠点）
主要連結子会社 4社



海外ネットワーク

海外主要拠点 12拠点



2. 2019年3月期決算の概要

サマリー【連結損益計算書】

売上高は前期比▲4.2%、経常利益は▲7.6%の減収減益

単位：百万円（1株当たり純利益除く）

	2019年3月期		2018年3月期		前期比	
	実績	利益率	実績	利益率	差額	増減率
売上高	48,651	—	50,761	—	▲ 2,110	▲4.2%
売上原価	34,571	71.1%	36,301	71.5%	—	▲4.8%
販売費及び一般管理費	11,430	23.5%	11,228	22.1%	—	1.8%
営業利益	2,649	5.4%	3,232	6.4%	▲ 582	▲18.0%
経常利益	3,119	6.4%	3,375	6.6%	▲ 256	▲7.6%
当期純利益	1,800	3.7%	2,736	5.4%	▲ 936	▲34.2%
1株当たり純利益	219.95円	—	334.27円	—	—	—

連結貸借対照表

自己資本比率は39.0%、
前連結会計年度末から1.8ポイント改善

	2019年3月期		2018年3月期		前期比
	実績	構成比	実績	構成比	
流動資産 (うち棚卸資産)	31,588 (8,030)	52.1% (13.2%)	31,569 (7,503)	50.9% (12.1%)	19 (527)
固定資産	29,021	47.9%	30,418	49.1%	▲ 1,396
有形固定資産	24,598	40.6%	25,484	41.1%	▲ 886
無形固定資産	608	1.0%	626	1.0%	▲ 18
投資その他の資産	3,814	6.3%	4,307	6.9%	▲ 493
資産合計	60,609	100.0%	61,987	100.0%	▲ 1,377
流動負債	21,600	35.6%	23,582	38.0%	▲ 1,982
固定負債	14,043	23.2%	14,079	22.7%	▲ 35
負債合計	35,643	58.8%	37,661	60.8%	▲ 2,018
(うち借入金)	(17,271)	(28.5%)	(18,790)	(30.3%)	(▲ 1,519)
株主資本	16,807	27.7%	15,209	24.5%	1,598
その他の包括利益累計額	6,850	11.3%	7,840	12.6%	▲ 990
非支配株主持分	1,307	2.2%	1,276	2.1%	31
純資産合計	24,966	41.2%	24,325	39.2%	640

※参考

自己資本/自己資本比率

2019年3月期 23,658百万円/39.0%

2018年3月期 23,049百万円/37.2%

連結キャッシュ・フロー計算書

**2019年3月期のフリー・キャッシュ・フローは4,634百万円
(前期比2,677百万円増)**

(単位：百万円)

	2019年3月期 連結会計期間	2018年3月期 連結会計期間	前期比
現金及び現金同等物の期首残高	4,398	3,435	963
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,895	3,740	2,154
(うち減価償却費)	(2,162)	(2,348)	(▲ 186)
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,261	▲ 1,784	523
(うち設備支出額)	(▲ 1,604)	(▲ 2,281)	(677)
フリー・キャッシュ・フロー	4,634	1,956	2,677
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,902	▲ 1,015	▲ 887
(うち配当金)	(▲ 245)	(▲ 163)	(▲ 82)
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 174	22	▲ 196
現金及び現金同等物の期末残高	6,955	4,398	2,557

セグメント概要

電子・機能製品事業は減収減益、フィルム・シート事業は増収減益
建材関連事業は減収減益、エンジニアリング事業は減収増益

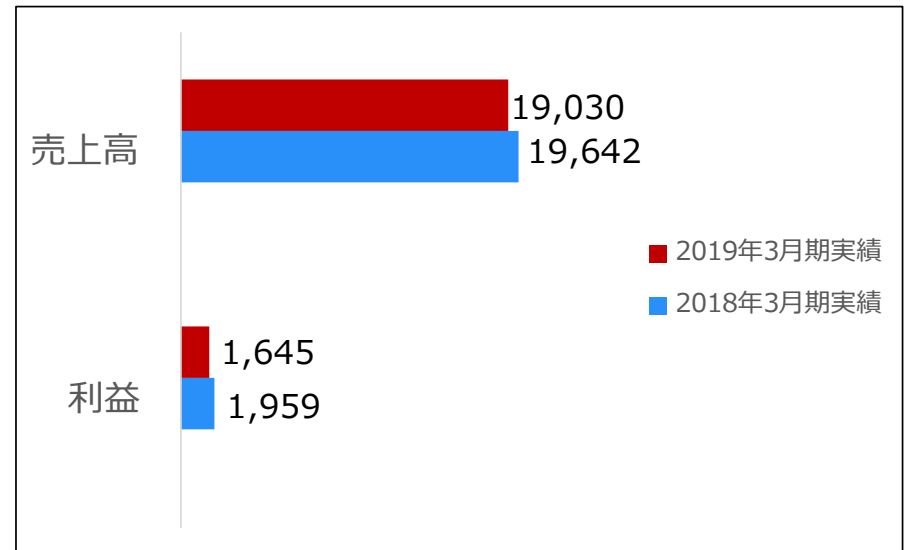
(単位：百万円)

		2019年3月期	2018年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	19,030	19,642	▲ 612	▲ 3.1%
	利益	1,645	1,959	▲ 314	▲ 16.0%
フィルム・シート	売上高	16,370	16,061	309	1.9%
	利益	1,174	1,539	▲ 365	▲ 23.7%
建材関連	売上高	9,766	10,363	▲ 597	▲ 5.8%
	利益	210	601	▲ 391	▲ 65.1%
エンジニアリング	売上高	4,808	5,625	▲ 817	▲ 14.5%
	利益	93	▲ 259	352	—

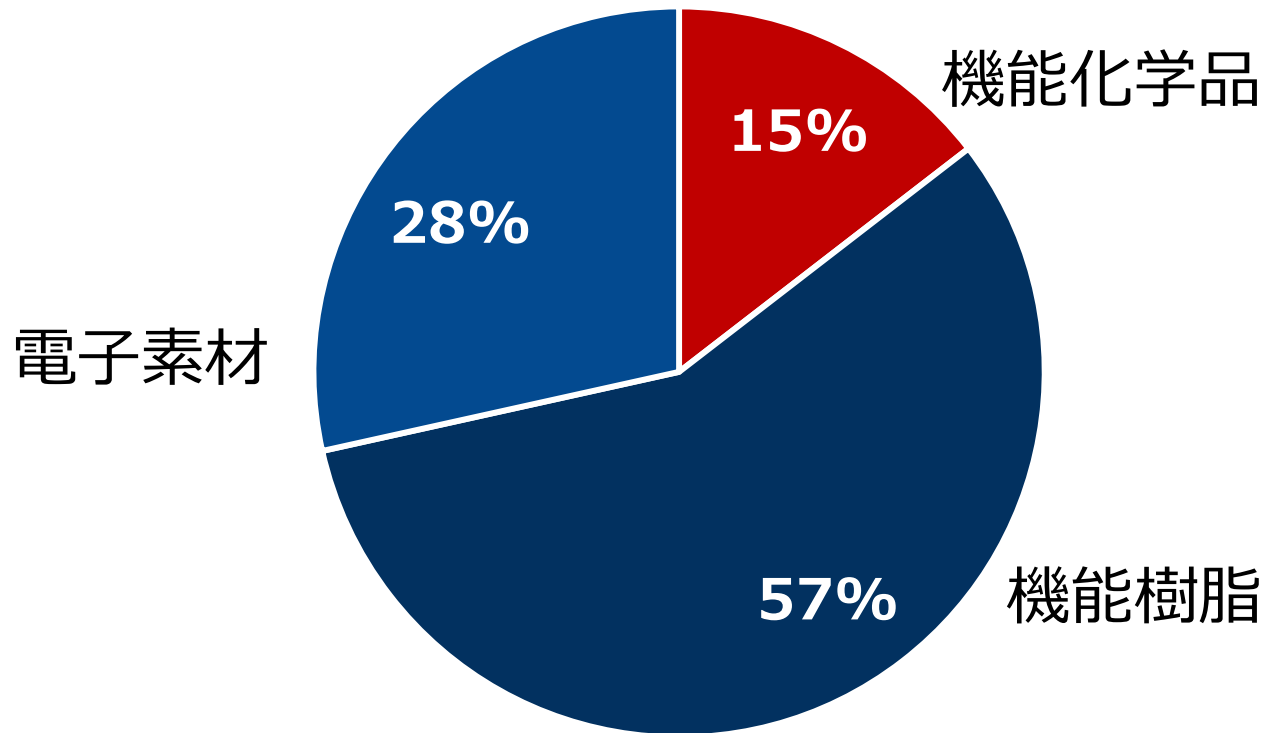
セグメント別状況 【電子・機能製品事業】

		2019年3月期	2018年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	19,030	19,642	▲ 612	▲ 3.1%
	利益	1,645	1,959	▲ 314	▲ 16.0%

- 機能化学品は医薬品・農薬向けが低迷し、減収
- 機能樹脂は光学関連分野向け粘・接着剤は堅調に推移したが、トナー用樹脂の販売が低調となり、減収
- 電子素材は、半導体用金型クリーニング材が海外での販売が伸びず、減収。セラミック基板が車載向けが好調に推移し、増収
- 原油価格の高騰などによる原材料費の上昇などが影響し、減益



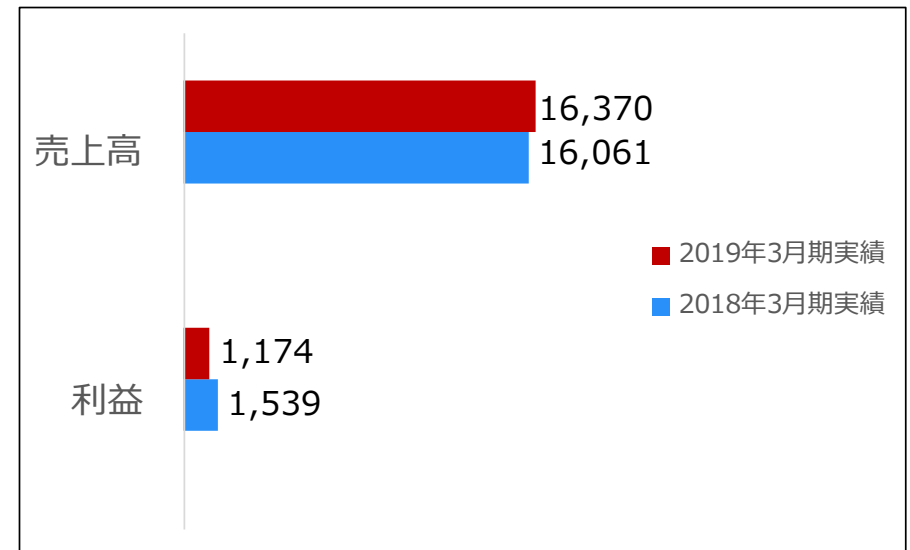
2019年3月期 売上高実績
19,030百万円



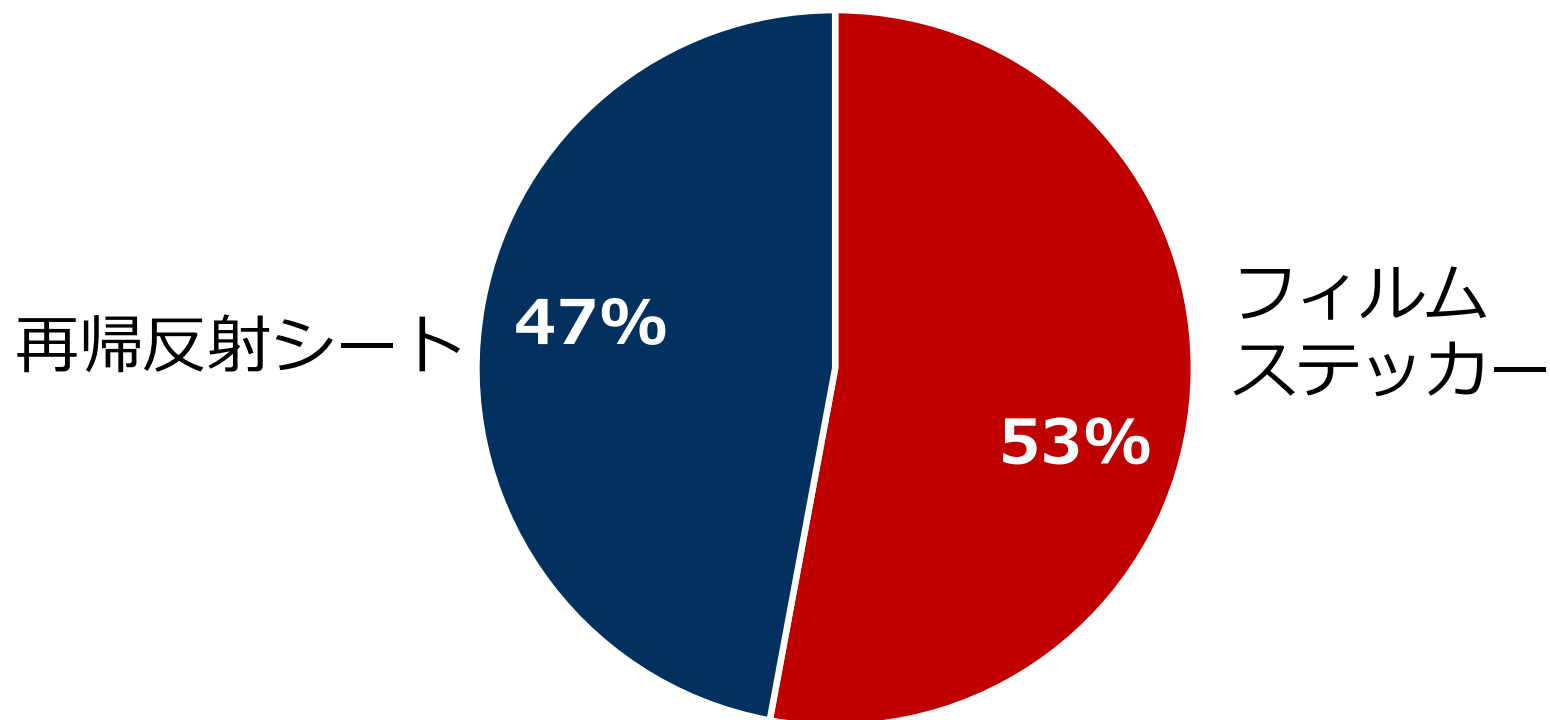
セグメント別状況 【フィルム・シート事業】

		2019年3月期	2018年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
フィルム・シート	売上高	16,370	16,061	309	1.9%
	利益	1,174	1,539	▲ 365	▲ 23.7%

- フィルムは国内及び海外ともに順調に推移し、増収
- ステッカーは東南アジア地域などでの販売が好調に推移し、増収
- 再帰反射シートは米国向けなど販売が総じて振るわず、減収
- 原材料費や輸送費等のコスト上昇により、減益



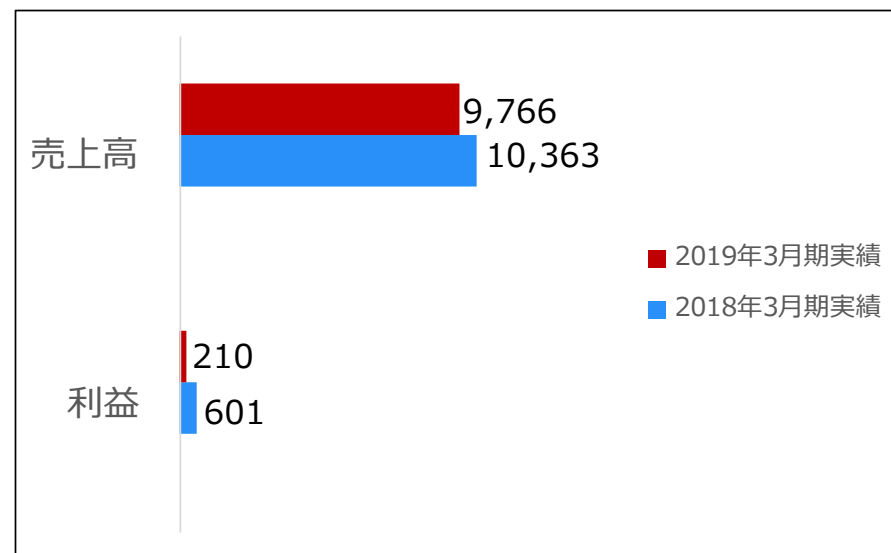
2019年3月期 売上高実績
16,370百万円



セグメント別状況 【建材関連事業】

		2019年3月期	2018年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
建材関連	売上高	9,766	10,363	▲ 597	▲ 5.8%
	利益	210	601	▲ 391	▲ 65.1%

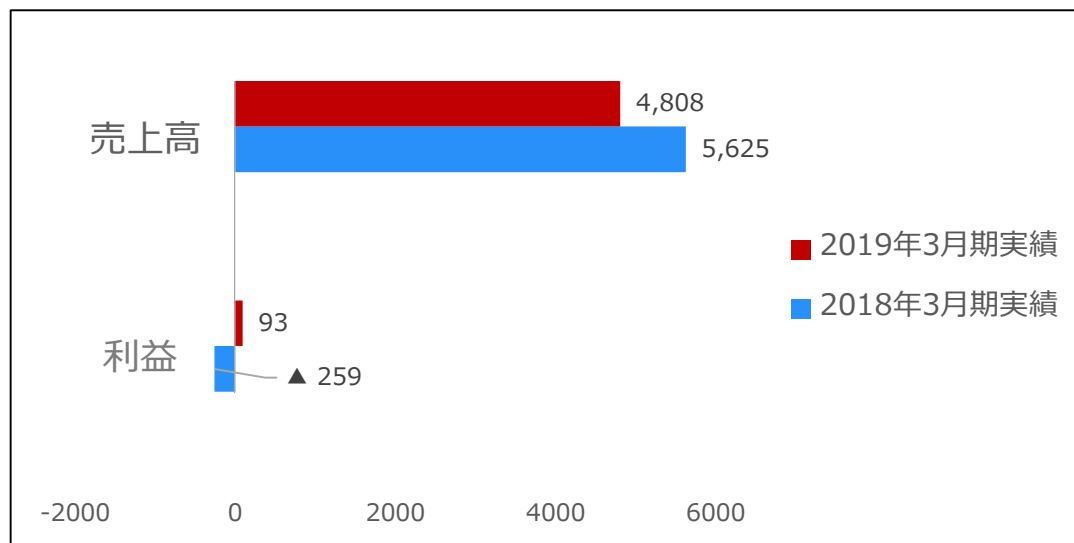
- 住宅着工戸数の減少などにより、主力の手摺、笠木等の販売が低迷し、減収
- アルミ地金の高騰による影響などもあり、減益



セグメント別状況 【エンジニアリング事業】

		2019年3月期	2018年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
エンジニアリング	売上高	4,808	5,625	▲ 817	▲ 14.5%
	利益	93	▲ 259	352	-

- 国内向け工事案件の完工が減少したことなどにより、減収
- 追加工事などのコスト減少により増益



中期経営プラン「ACTIVE2018」総括

基本方針

増収増益を継続して達成できる企業グループを実現する

重点施策

取り組み内容	進捗状況	
事業の選択と集中		不採算事業の整理、セラミック基板の黒字化達成
研究開発効率化による速やかな上市		研究開発の集約により、開発業務効率向上 但し、具体的な成果は不十分
海外事業会社体質強化		東南アジアは好調に推移 インド黒字化にメド、ブラジル黒字化
国内関係会社強みの伸長 確固たる事業基盤確立		建材関連事業売上100億円未達（97億円） エンジニアリング事業は風土・体質改善するも、業績回復遅延

経営指標

目標 売上高520億円、経常利益35億円⇒結果未達（売上486億円、経常利益31億円）

3. 2020年3月期業績予想

2020年3月期 連結業績予想

- ・ 中期経営計画の初年度として、成長戦略に向けての足がための年度と位置付ける
- ・ 増収増益を目指す

単位：百万円（1株当たり配当金除く）

	2020年3月期		2019年3月期		前期比	
	予想	利益率	実績	利益率	差額	増減率
売上高	51,000	—	48,651	—	2,349	4.8%
営業利益	2,700	5.3%	2,649	5.4%	51	1.9%
経常利益	2,950	5.8%	3,119	6.4%	▲ 169	▲ 5.4%
当期純利益	2,000	3.9%	1,800	3.7%	200	11.1%
1株当たり純利益	244.28円	—	219.95円	—	—	—

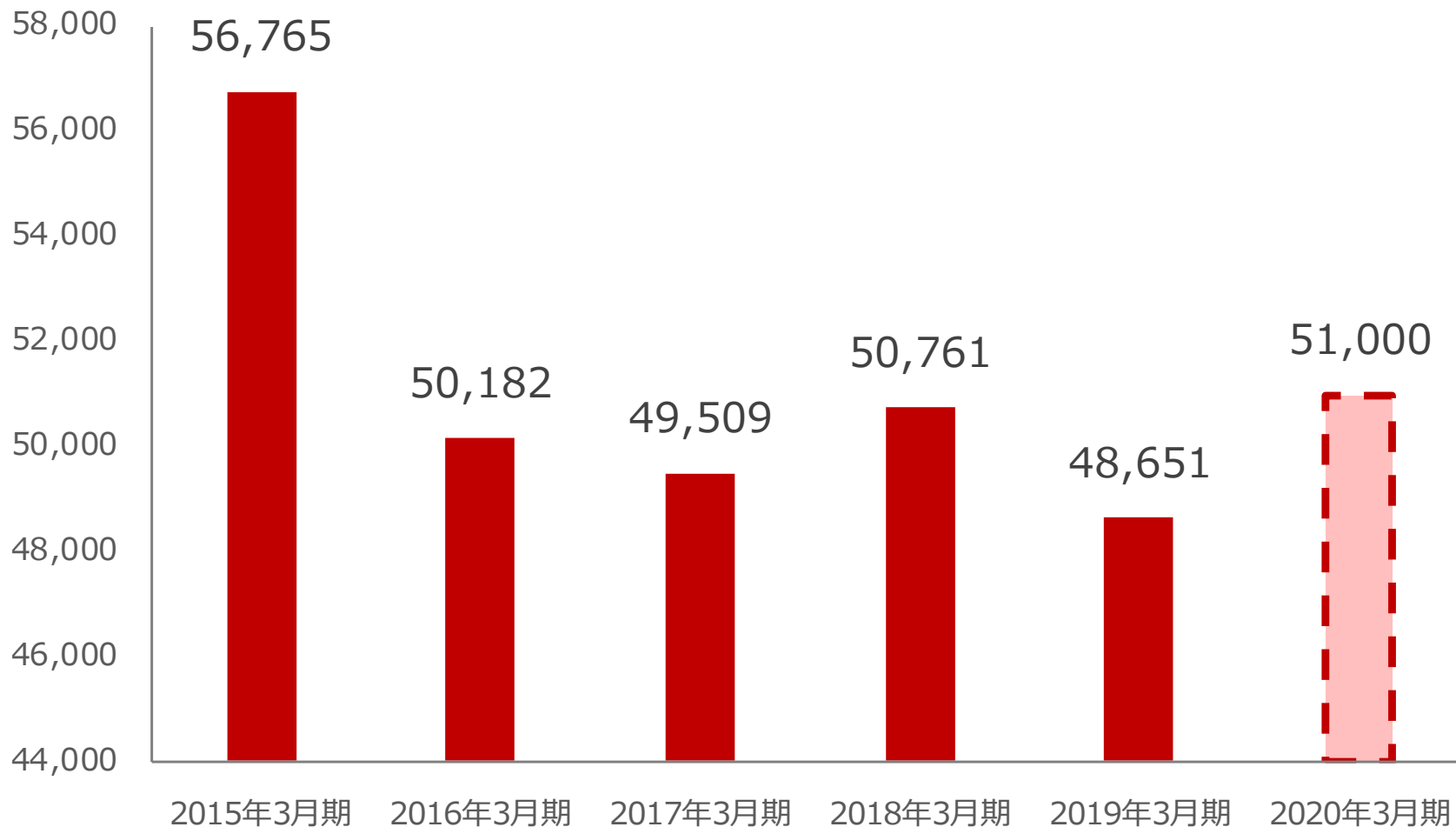
業績予想ポイント

セグメント	2020年3月期予想		前期比 トレンド	コメント
電子・機能製品	売上高	20,000		<ul style="list-style-type: none"> 機能化学品は高付加価値製品の拡販に注力 機能樹脂は光学用粘着剤の拡販に注力 電子素材は車載関連需要を中心とするセラミック基板の拡販に注力。製造の歩留まりを上げていく努力や新規投資により、供給量を増やしていく 原材料（ナフサ）価格の高騰が懸念材料
	利益	2,200		
フィルム・シート	売上高	17,000		<ul style="list-style-type: none"> フィルムは車両用（外装・内装）フィルムなどへの新規投資を予定 ステッカーは東南アジアでの拡販に注力。但し、価格低下などが懸念材料 再帰反射シートはカーナンバープレートの拡販に注力 米中貿易摩擦の長期化が懸念材料
	利益	1,100		
建材関連	売上高	10,400		<ul style="list-style-type: none"> 手摺、笠木の工事物件の受注による拡販とルーバーの当社品の認知度アップによる拡販、折板カーポートの拡販に注力 新製品（補助手摺「フ・レール」）の販売開始 原材料（アルミ地金）価格の高騰が懸念材料
	利益	400		
エンジニアリング	売上高	4,600		<ul style="list-style-type: none"> 国内外での製鉄業界への展開強化と、富山県内大手企業等からの受注拡大に注力するが、足元は減収減益の見込み
	利益	0		

※各事業の予想値は連結調整前 ※2020年3月期より利益は営業利益とする

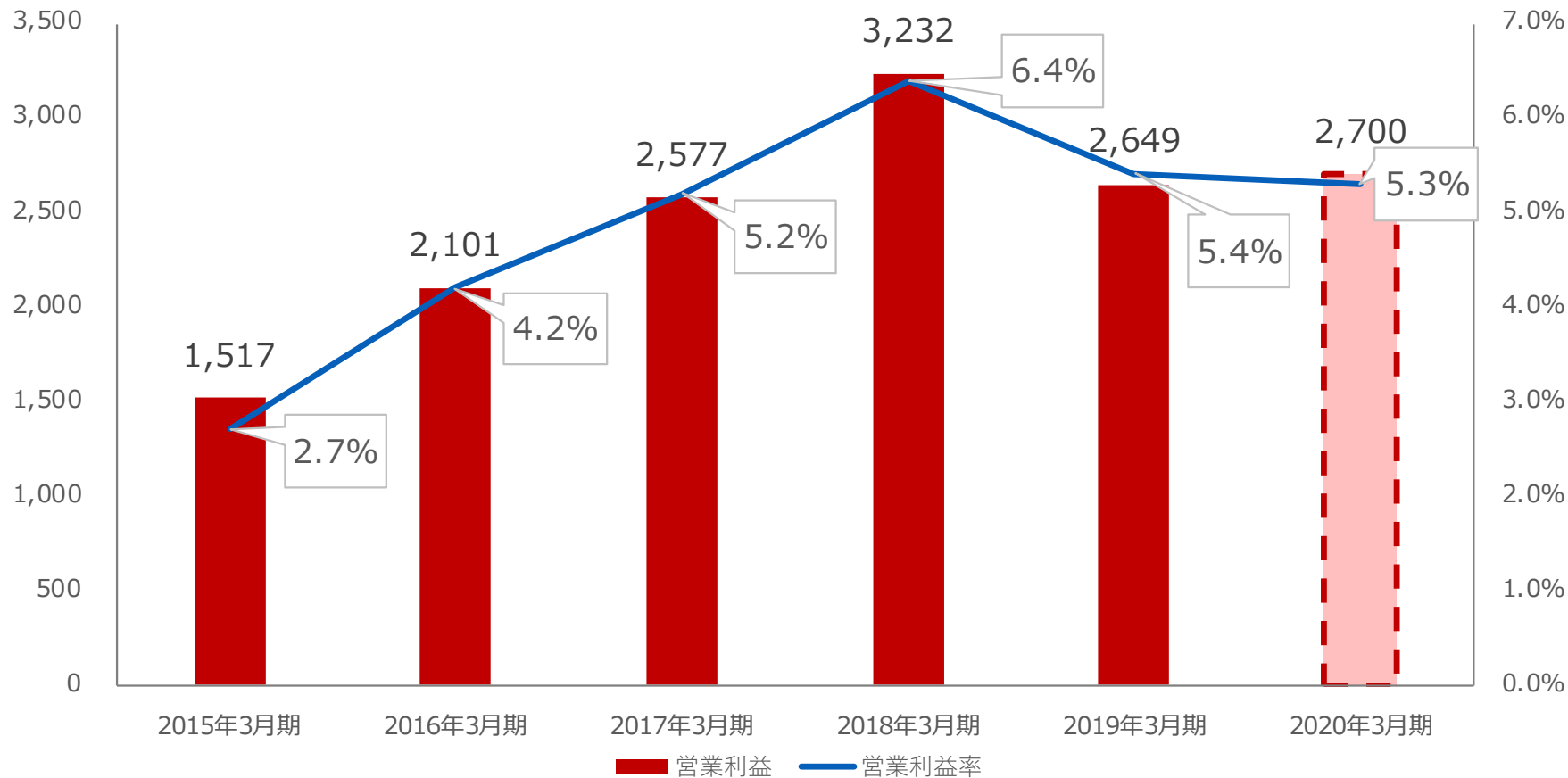
連結業績の推移 売上高

単位：百万円



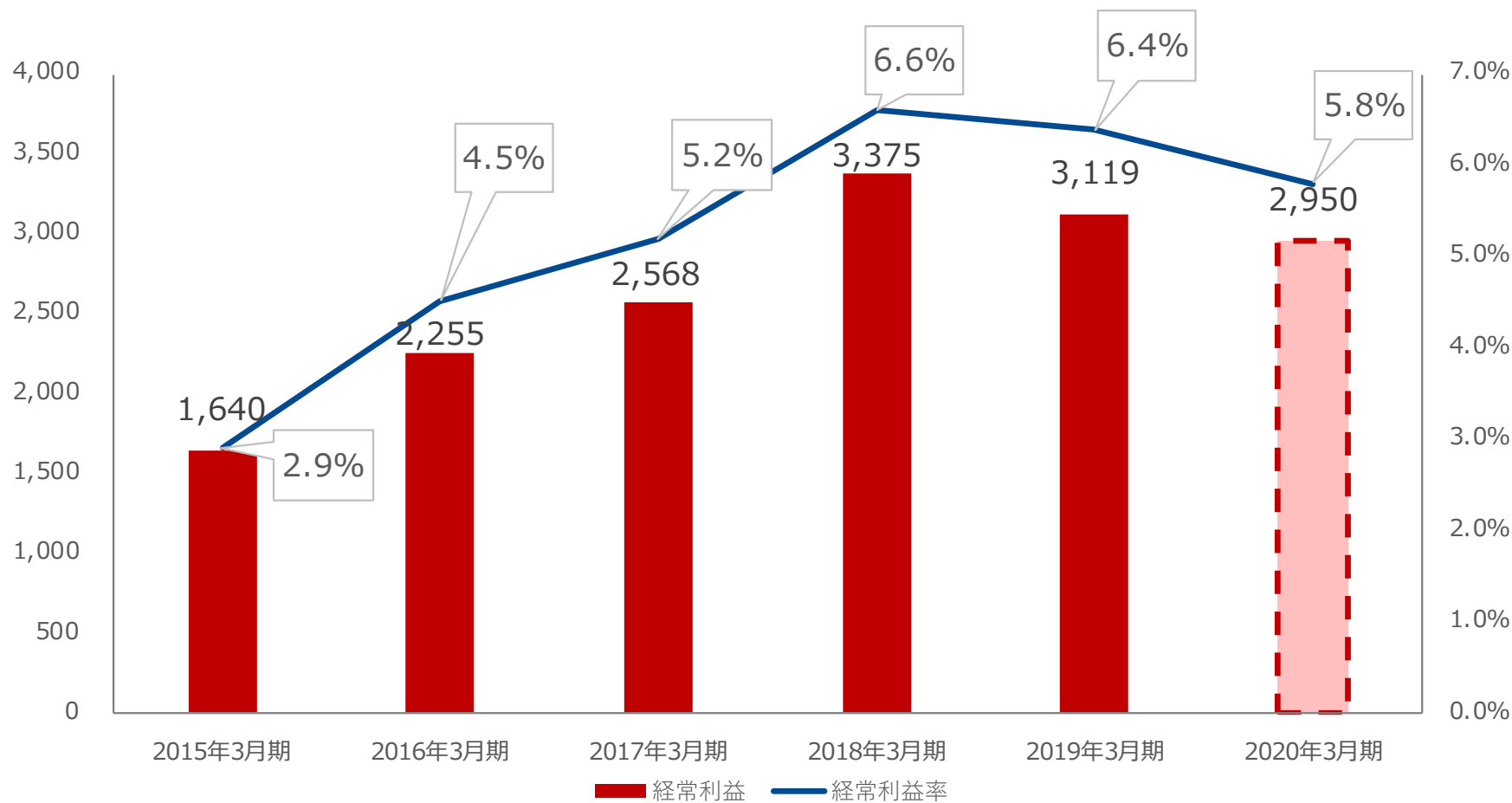
連結業績の推移 営業利益

単位：百万円



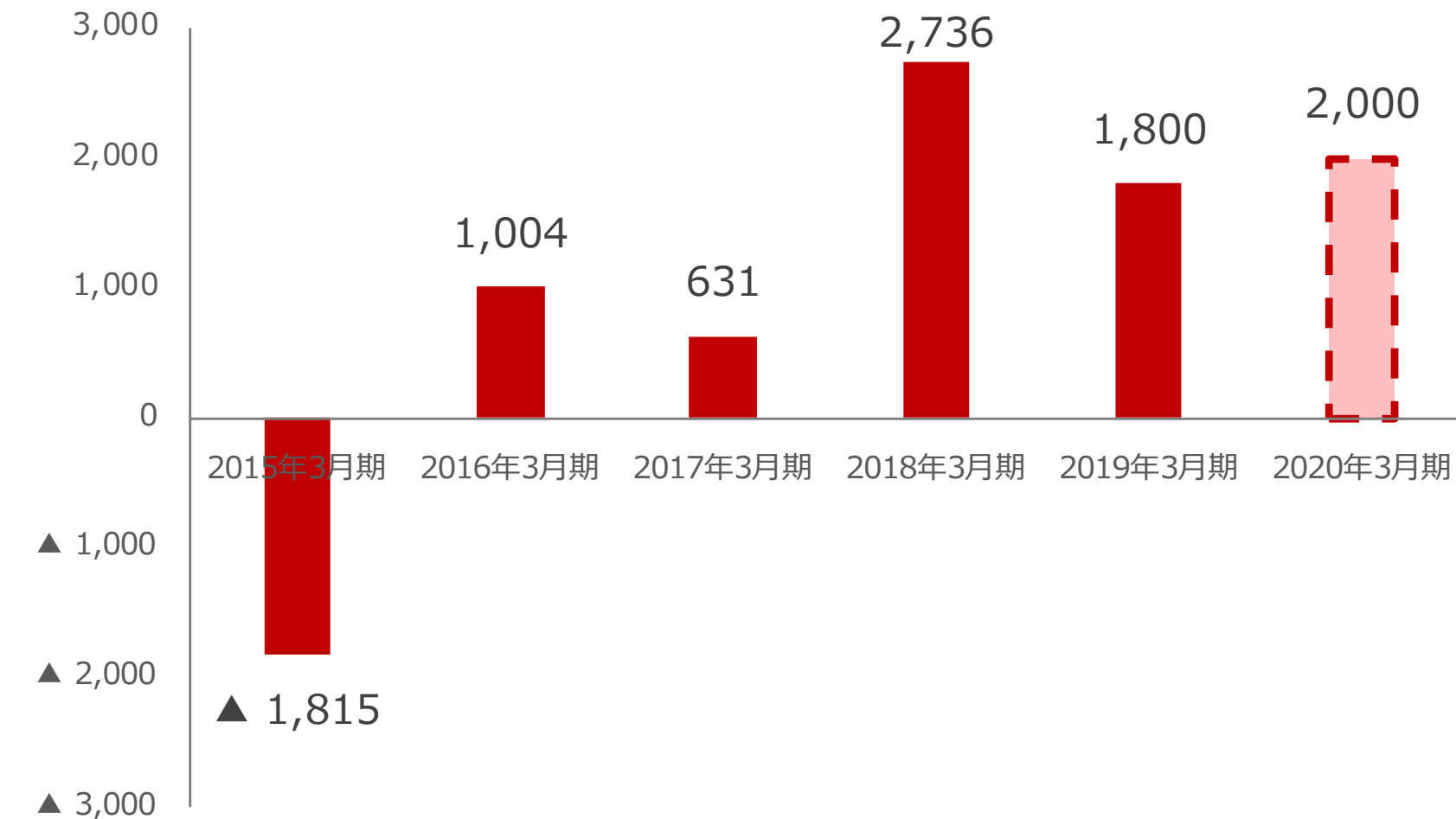
連結業績の推移 経常利益

単位：百万円



連結業績の推移 親会社株主に帰属する当期純利益

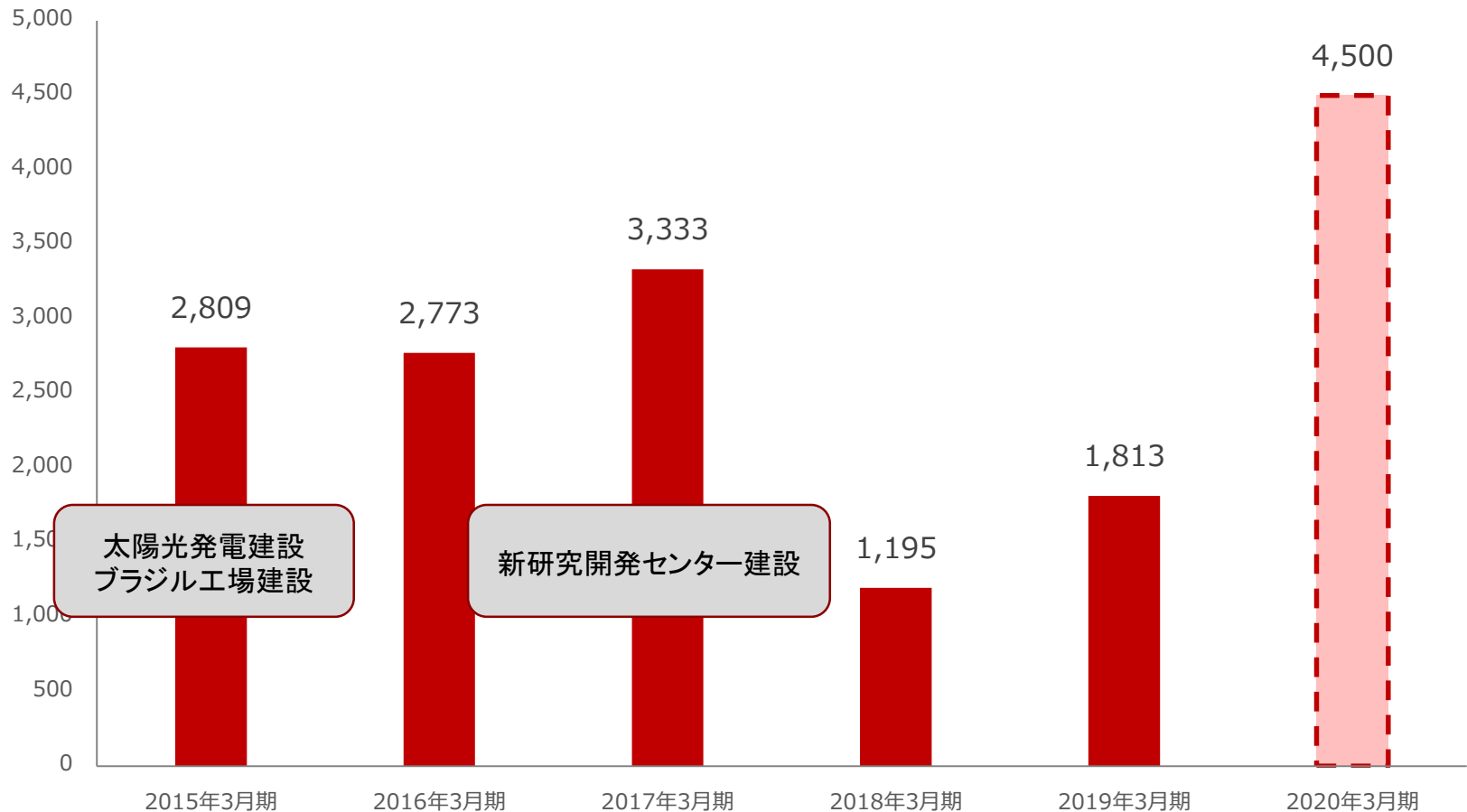
単位：百万円



設備投資の状況

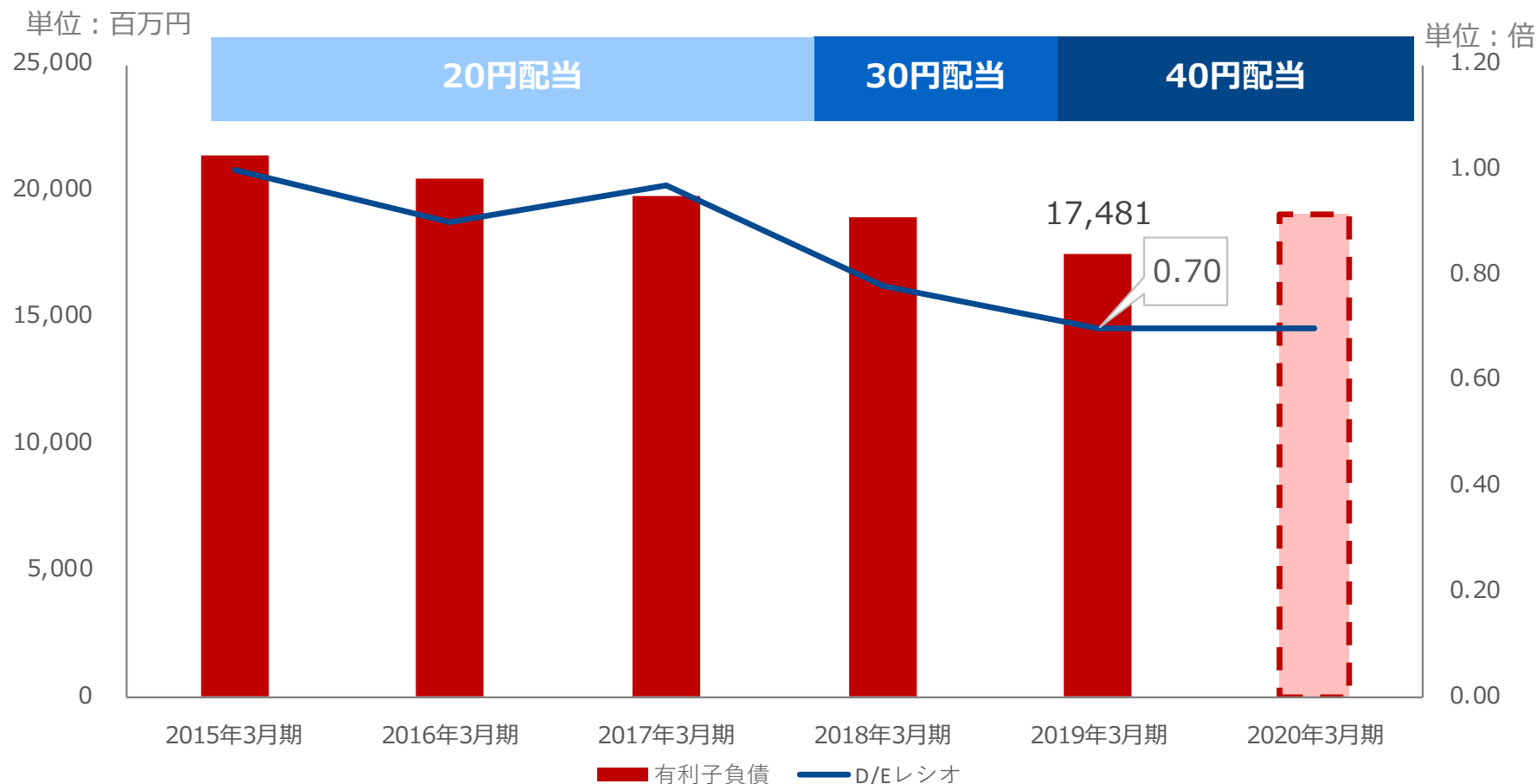
成長路線に向けて、基礎的な投資を開始

単位：百万円



有利子負債及び配当の推移

2018年3月期30円、2019年3月期40円配当と、2年連続増配



※配当は1株あたり。2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施。2017年3月期以前の1株当たり配当金額は当該株式併合を考慮して換算した金額を記載

4. 中期経営計画

経営理念－ミッション・ビジョン・価値観－

Mission

私たちのミッション

技術力で価値を創造し、
より豊かな社会の発展に貢献する。

Vision

私たちのビジョン

キラリと光る、価値ある企業グループ

Values

私たちが大切にしている価値観

誠実であること

Sincerity

奉仕すること

Service

協力すること

One-NCI

創造すること

Innovation

中期経営計画の考え方



コア事業のうち

高付加価値ビジネスを**成長戦略**とし

未来の社会に幅広く貢献する

持続的成長可能な化学系企業グループ

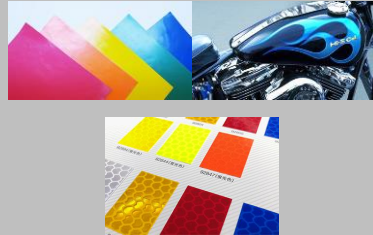
「コア事業」

コア事業のうち
高付加価値ビジネスを成長戦略とし
未来の社会に幅広く貢献する
持続的成長可能な化学系企業グループ

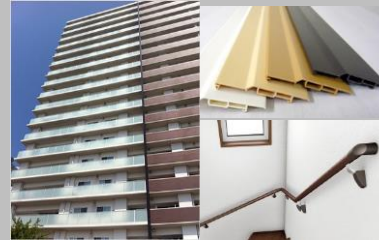
電子・機能製品事業



フィルム・シート事業



建材関連事業



エンジニアリング事業



コア事業

「高付加価値ビジネス」

コア事業のうち
高付加価値ビジネスを成長戦略とし
未来の社会に幅広く貢献する
持続的成長可能な化学系企業グループ

高付加価値ビジネス = ① コア事業のうち、**高機能樹脂**および**機能性フィルム**を**戦略分野**とする
② 戦略分野×戦略分野

戦略分野

高機能樹脂

機能性
フィルム

戦略分野×戦略分野

高機能樹脂



機能性
フィルム

研究・製造・販売の融合
新商品開発、新市場開拓

「成長戦略」

コア事業のうち
高付加価値ビジネスを**成長戦略**とし
未来の社会に幅広く貢献する
持続的成長可能な化学系企業グループ

成長戦略 = **戦略分野** × 注力領域・成長地域



2025年度 数値目標

売上高

コア事業

500億円

営業利益

コア事業

60億円

営業利益率

コア事業

12%

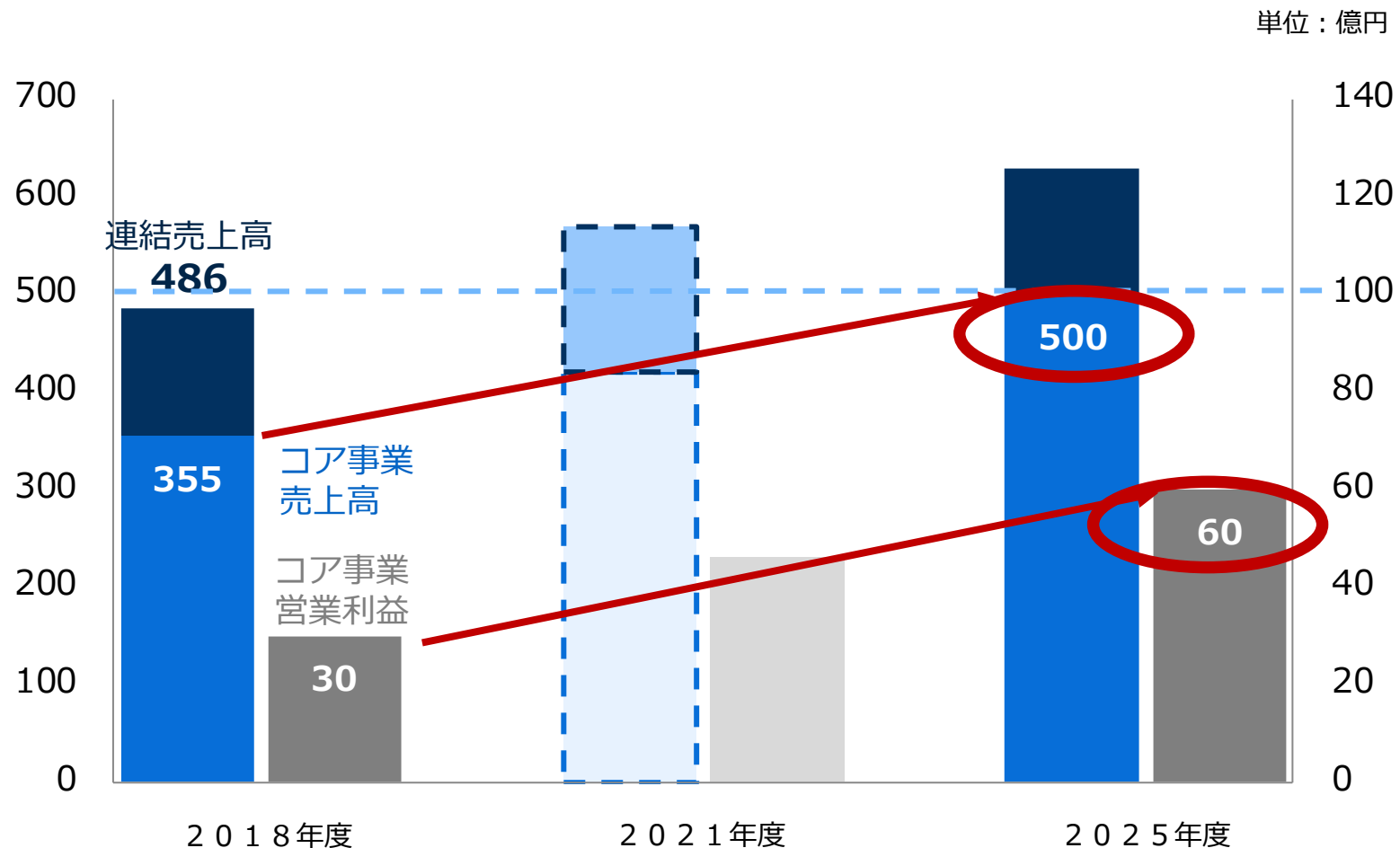
ROA

連結

5.0%

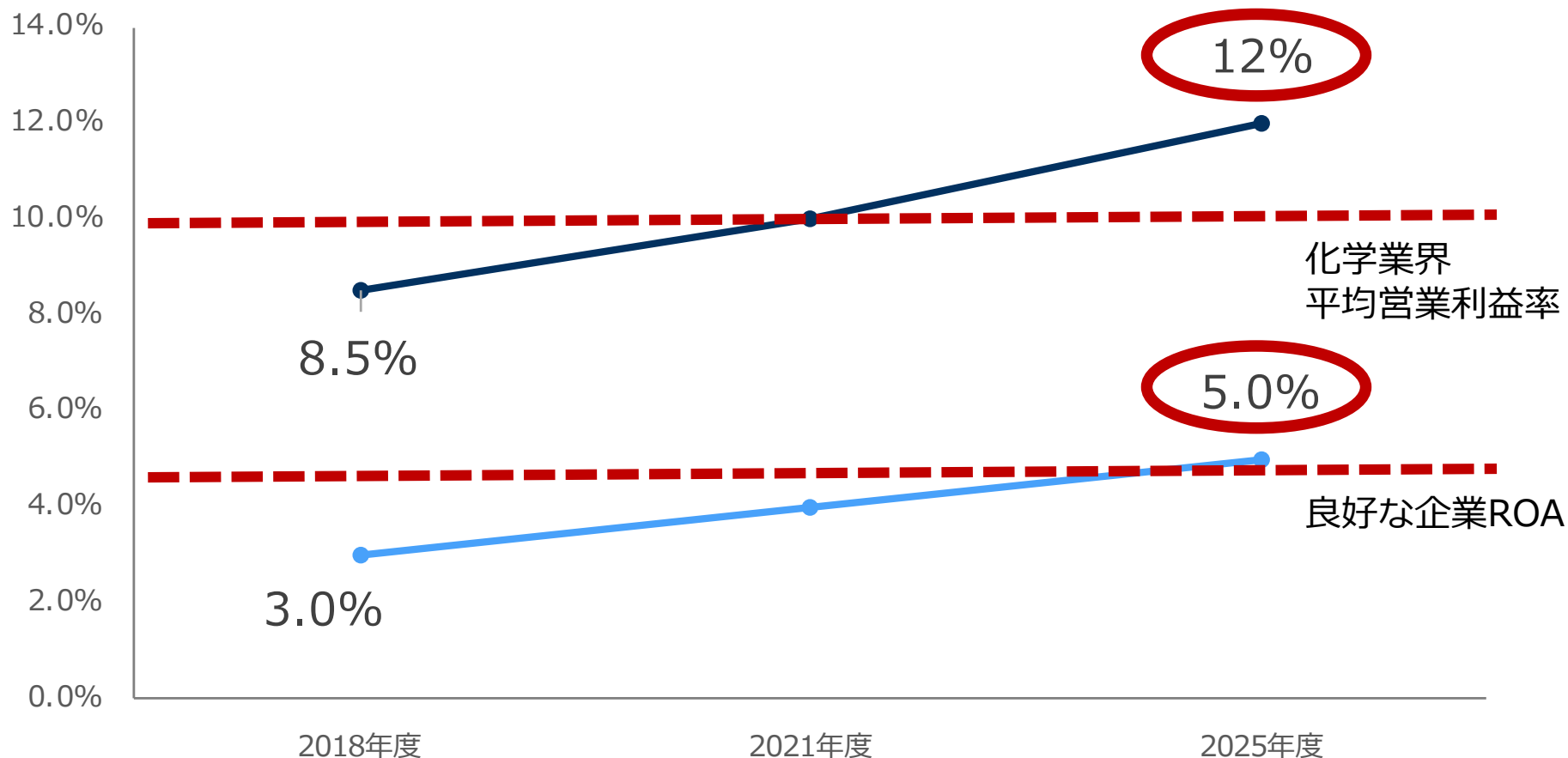
2025年度 売上高・営業利益目標

- **コア事業で売上高500億円（2018年度連結売上高）を目指す**
- **コア事業で営業利益60億円（2018年度実績の2倍）を目指す**



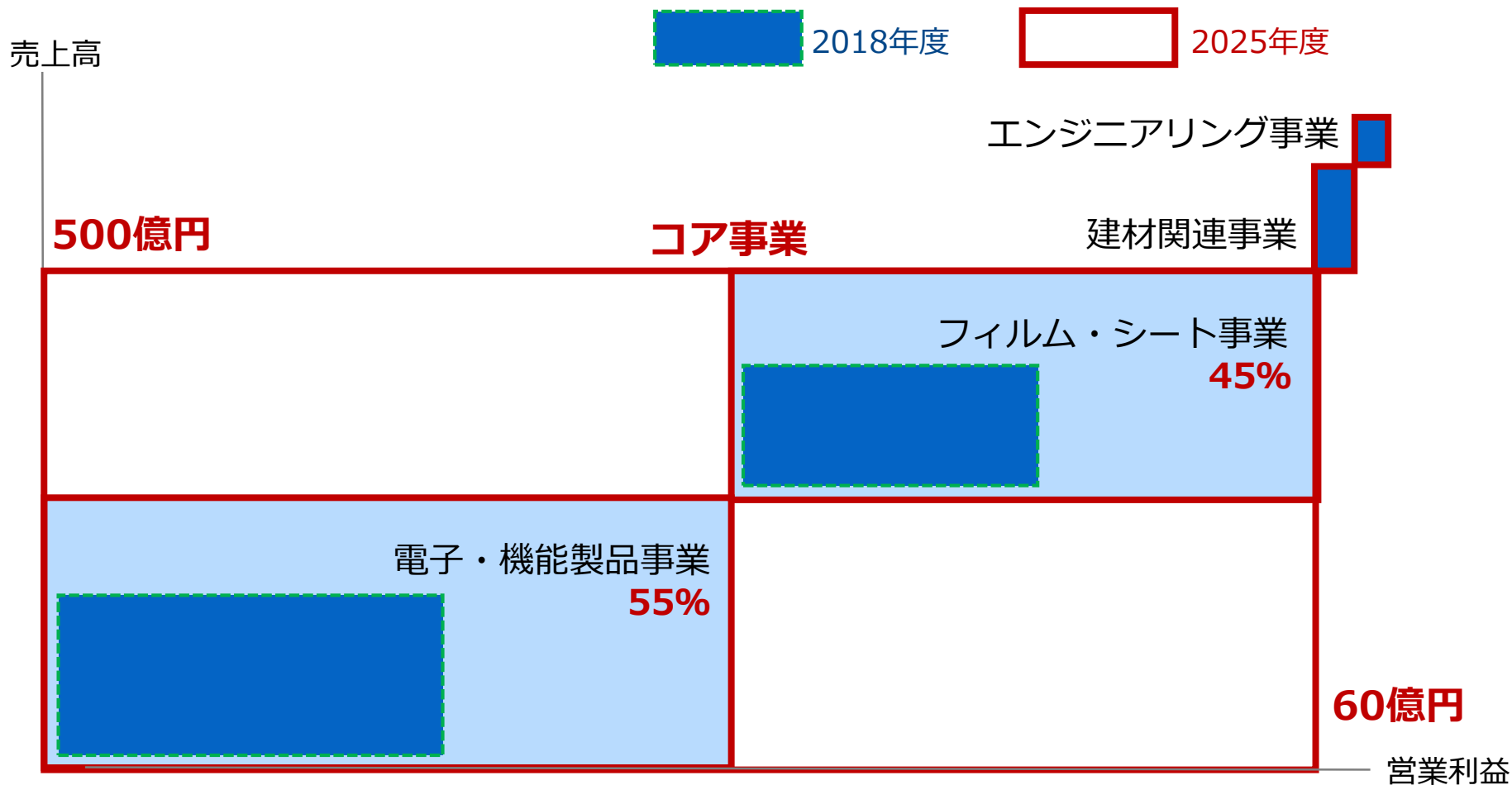
2025年度 営業利益率・ROA目標

- コア事業で、化学業界の平均値（10%）を上回る、営業利益率12%を目指す
- 良好な企業ROAとされるROA5.0%を目指す



2025年度 事業ポートフォリオ目標

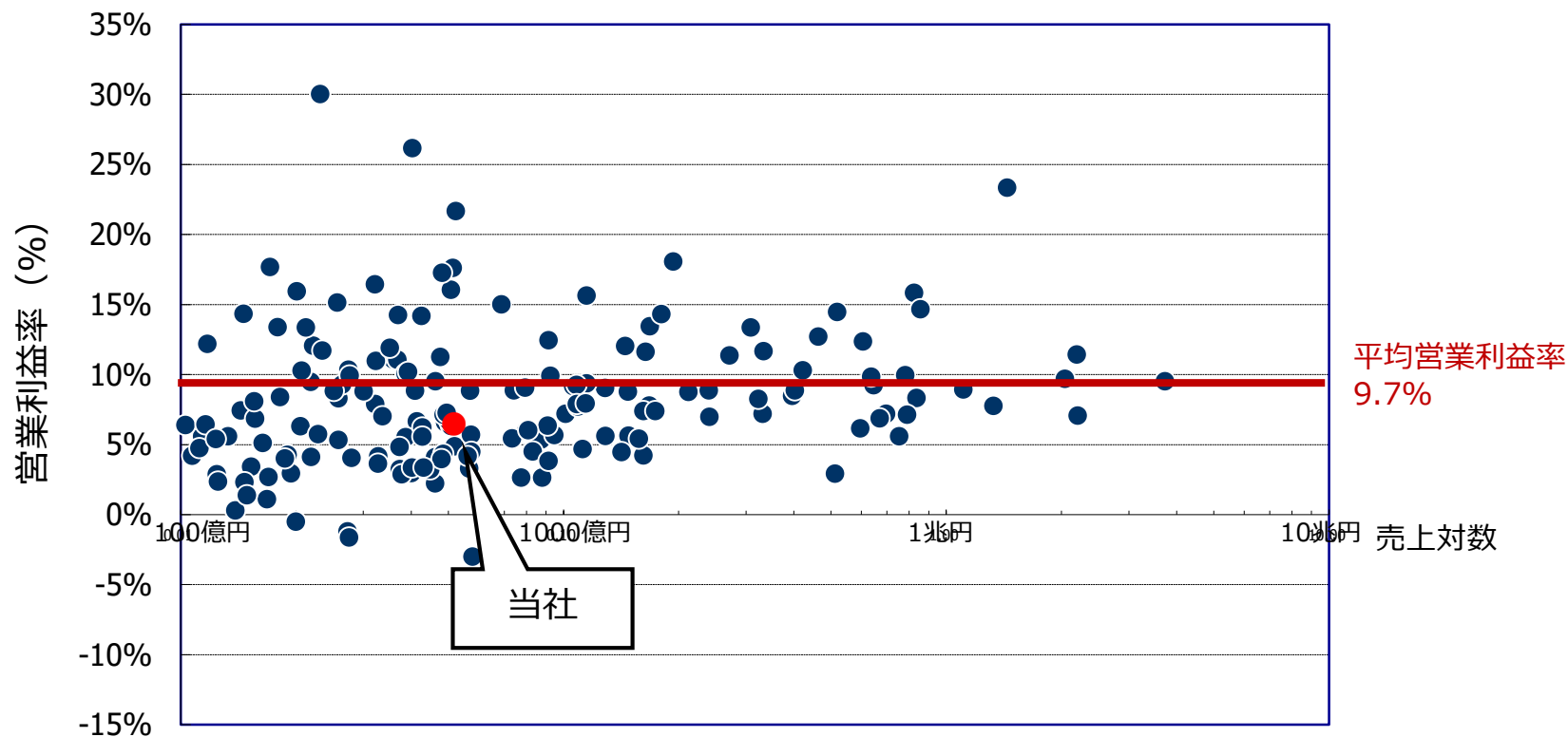
コア事業売上のうち、電子・機能製品事業55%、フィルム・シート事業で45%を目指す



化学業界の収益性

規模の大きい企業の収益率が高いということではなく、ニッチ・得意領域に特化した企業や、特定の付加価値の高い市場特性を持った企業が収益率が高く、大きなばらつきがある

化学業界企業の売上高と営業利益率の分布構成 (2017年度)



出所：日本IBM分析 2018年

Moving to the growing stage (成長のステージへ)

「2025年のありたい姿」に向け、
3か年の**中期経営計画「NCI-2021」**を
策定しました。

日本カーバイド工業は、
「成長戦略への本格転換」を目指します。

NCI-2021 数値目標

売上高	連結	570億円
	コア事業	420億円

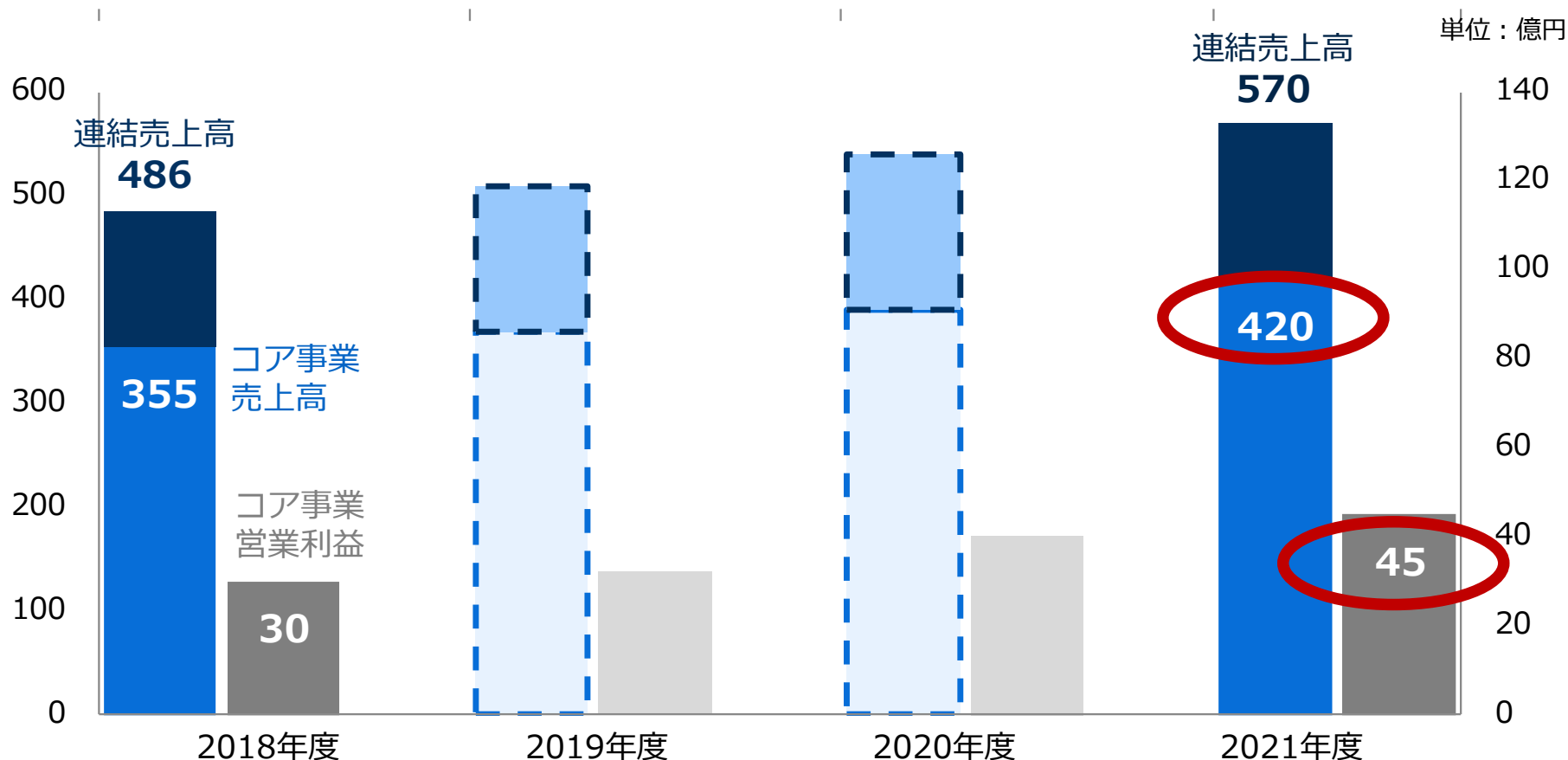
営業利益	コア事業	45億円
------	------	-------------

営業利益率	コア事業	10% (化学業界の平均)
-------	------	-------------------------

ROA	連結	4.0%
-----	----	-------------

NCI-2021 売上高・営業利益目標

- コア事業で売上高420億円（2018年度対比18%増）を目指す
- コア事業で営業利益45億円（同 50%増）を目指す



成長戦略

①事業戦略

コア事業のうち、高機能樹脂、機能性フィルムを戦略分野として、注力領域・成長地域への取組みを強化する

②プロセス改革

One-NCI、働き方改革による生産性の向上と組織の活性化

- ・グループ内協働体制の構築
- ・基幹システム刷新、業務の全面見直しによる生産性の向上
- ・多様な働き方への環境整備と健康経営への取組み

人材育成マネジメントの仕組み構築

- ・多様性のある人材の育成
- ・経営人材の後継者計画

③グループ視点でのガバナンス体制強化

グループ会社も含めた一体運営・管理の再構築

コア事業（電子・機能製品事業／フィルム・シート事業）のうち、**高機能樹脂、機能性フィルム**を**戦略分野**として、**注力領域・成長地域**への取組みを強化する

戦略分野

注力領域

成長地域

高機能樹脂

機能性
フィルム

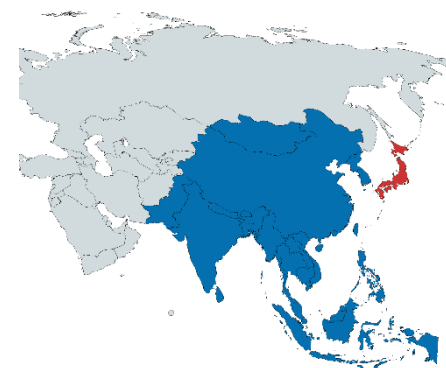
セーフティ



モビリティ



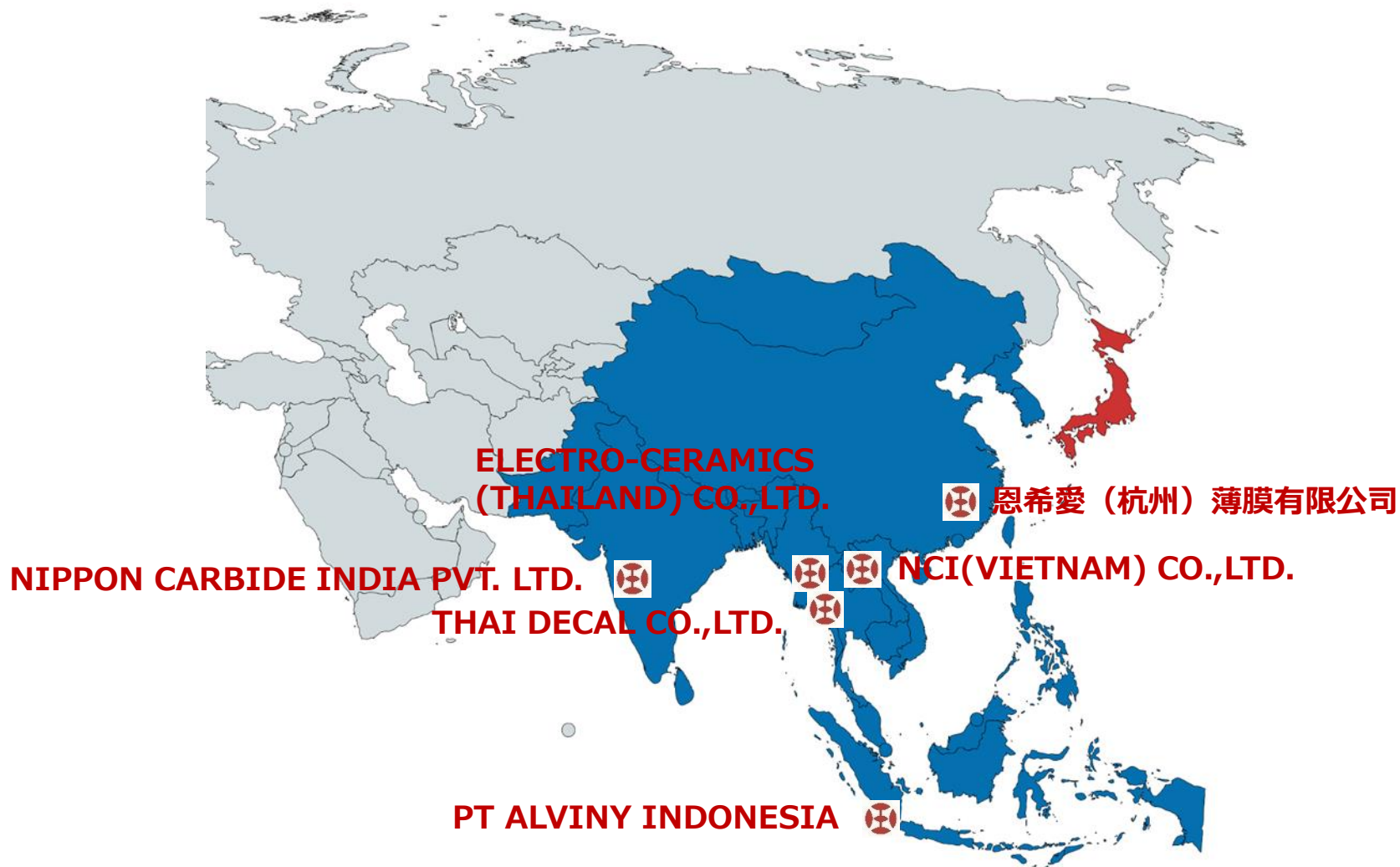
アジア
(現拠点を軸に)



注力領域



アジア（現拠点を軸に）



注力領域×成長地域

		成長地域			
		日本	アジア	その他	
注力領域	セーフティ	難燃剤			
		医療用樹脂			
		医薬品原体			
		粘・接着剤			
		カーナンバープレート用／標識用／広告・看板用 再帰反射シート			
	モビリティ	レーザーマーキングラベル			
		空中ディスプレイ用リフレクター			
		車両用（外装・内装）フィルム 車両用グラフィックステッカー			
		グリーンシート	3Dエンブレム		
		チップ抵抗器用アルミナセラミック基板			

戦略分野

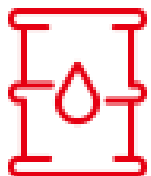
注力領域「セーフティ」 主な製品



難燃剤

高機能樹脂

木材や紙、布などの難燃性を高めます。建築物や上下水道など様々なシチュエーションで使用され、私たちの暮らしを火災から守ります。



医療用樹脂

高機能樹脂

パップ剤の粘着部分の粘着剤や医薬品などに使用されます。



医薬品原体

医薬品の原薬を提供することを通じて、人々の健康に貢献します。

注力領域「モビリティ」 主な製品



車両用（外装・内装）フィルム 車両用グラフィックステッカー

機能性フィルム

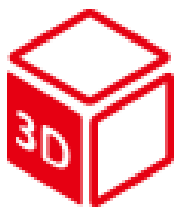
車の内装・外装に使用されるフィルム・グラフィックステッカーです。塗装代替に使用されることで、環境問題にも貢献します。



高い耐候性、色の再現性を持ちつつ、どんな形状にもフィットするフィルム



車体を彩る、グラフィックステッカー



3Dエンブレム

機能性フィルム

曲面追従性に優れ、多彩な色や形状など豊富なバリエーションに対応可能な立体のエンブレムです。





グリーンシート

機能性フィルム

セラミック基板はグリーンシートを高温にて焼成する事により完成品となります。グリーンシートの品質が、セラミック基板の性能を決定づけます。つまり、セラミック基板製造において、グリーンシートの配合と製法が、キーテクノロジーになると言えます。

当社では、永年培ってきたグリーンシートの製造技術を強みとして、お客様の要望にお応えする、種々のグリーンシートを提供します。

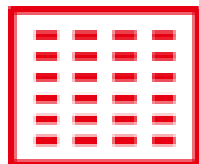
ご提供している製品の事例



高い絶縁性と放熱性が要求される車載向け電子部品に使われる、高熱伝導性セラミック基板の材料となるグリーンシート

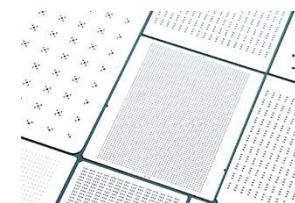
※グリーンシート

各種原料粉を混ぜ合わせ練りあわせて成形した生シート。これを焼成することで、セラミック基板となる。



チップ抵抗器用アルミナセラミック基板

セラミック基板は、各種電子部品のベース基板として、あらゆる電子機器に使用されています。昨今は、車載向けのニーズが高まっています。



注力領域 「セーフティ」 「モビリティ」 にまたがる主な製品



粘・接着剤

高性能樹脂

車両用（外装・内装）フィルムや車両用グラフィックステッカー、3Dエンブレム、カーナンバープレート用／標識用／広告・看板用 再帰反射シート、レーザーマーキングラベルなどの機能性フィルムの粘着部分に使用されるほか、光学用など幅広い用途に使用されます。



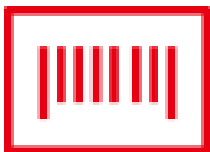
カーナンバープレート用／標識用／広告・看板用 再帰反射シート

機能性フィルム

再帰反射シートは、光が照らされると、夜間でも明るく浮かびあがります。これにより、安全と秩序をドライバーへ呼びかけます。



注力領域 「セーフティ」「モビリティ」にまたがる主な製品



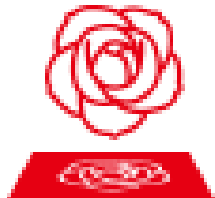
レーザーマーキングラベル

機能性フィルム

かすれない安定した印字性と、優れた耐熱性・耐久性を誇るレーザーマーキングラベルは、シリアルNo.等の個体情報を必要とする認証ラベルや銘板ラベル、製造の際の工程管理や製造履歴を残すラベルとして使用されます。また、あえて脆くする自己破壊性のある製品も取り揃えており、車をはじめとする工業製品の安心・安全を守ります。



注力領域 「セーフティ」「モビリティ」にまたがる主な製品



空中ディスプレイ用リフレクター

機能性フィルム

何にもない空中に、鮮明な映像を再表示させることができます。2019年秋には、現行品よりさらに画像精度が高い「RF-AX」の量産化を予定しています。画像品質に不満のあったユーザーにも満足いただけるものと期待しています。また、鮮やかな3D映像が飛び出す、ライトフィールド技術を利用した3D空中ディスプレイも、実用化に向け開発を進めています。

具体的な導入検討が進んでいる事例

■ タッチコントロールユニットとの組み合わせ



⇒空中に浮かんだ映像がタッチパネルとなるので、タッチパネルに直接触れずに、衛生的に操作することが出来ます。安全・安心を追求する医療現場、飲食店、工場などの操作タブレットとして活用されます。

⇒空中に浮かんだ映像は、ある一定の位置・角度からしか見ることが出来ません。のぞき見などのリスクを防ぎつつ操作ができるとして、ATMなどセキュリティを重視する機器やシチュエーションで活用されます。

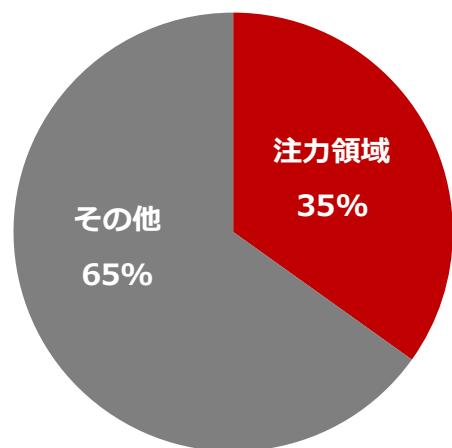
■ 自動車内製品への活用

⇒空中ディスプレイが、カーライフをより快適に演出します。

戦略分野売上高における注力領域構成比

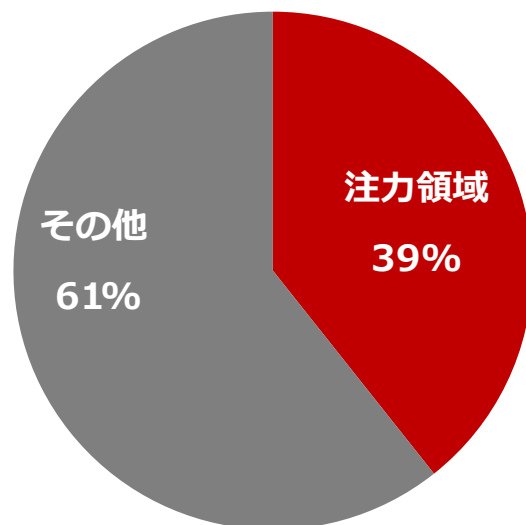
戦略分野売上高における注力領域の占める割合は18%から23%へ5ポイント増加、2025年度にはほぼ50%を目指す

2018年度

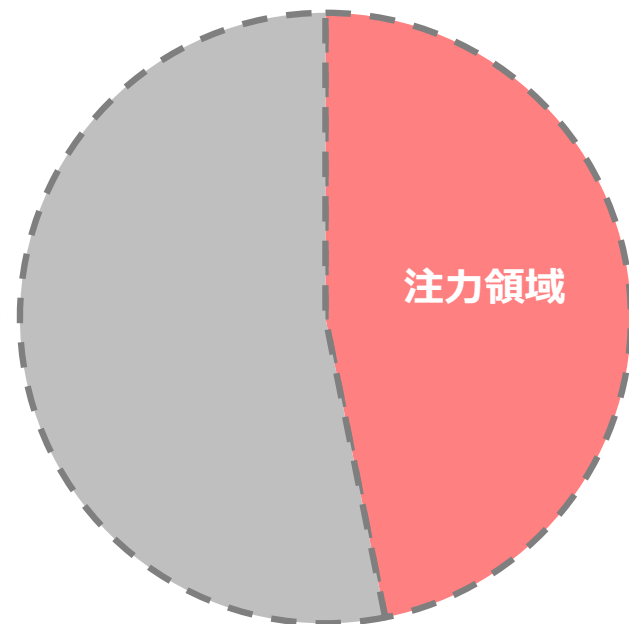


戦略分野売上高

2021年度



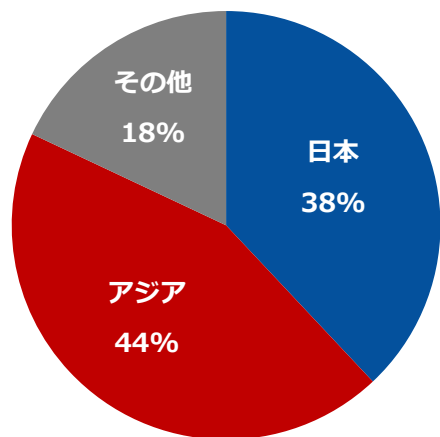
2025年度



戦略分野売上高における成長地域構成比

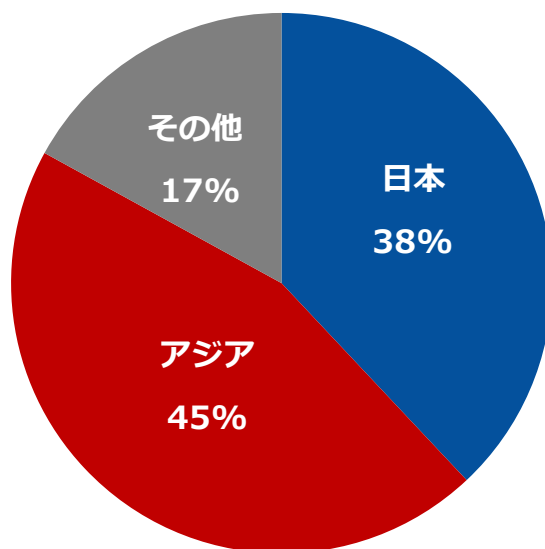
戦略分野売上高における成長地域の占める割合は44%から45%へ1ポイント増加、2025年度には50%を目指す

2018年度

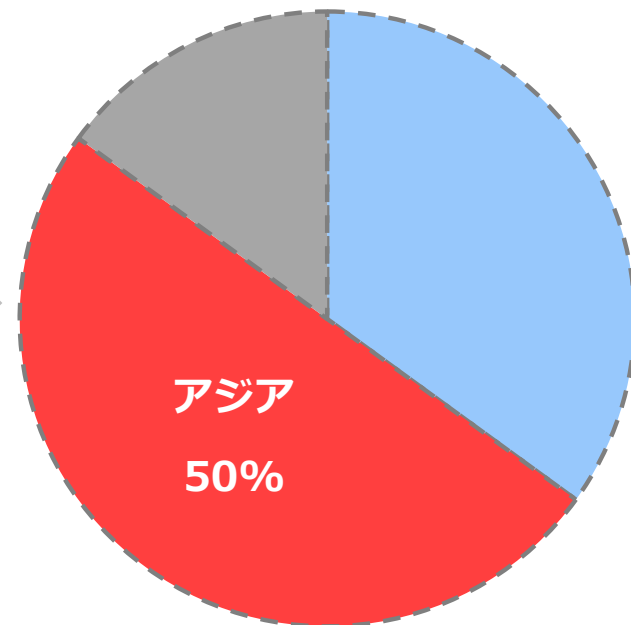


戦略分野売上高

2021年度



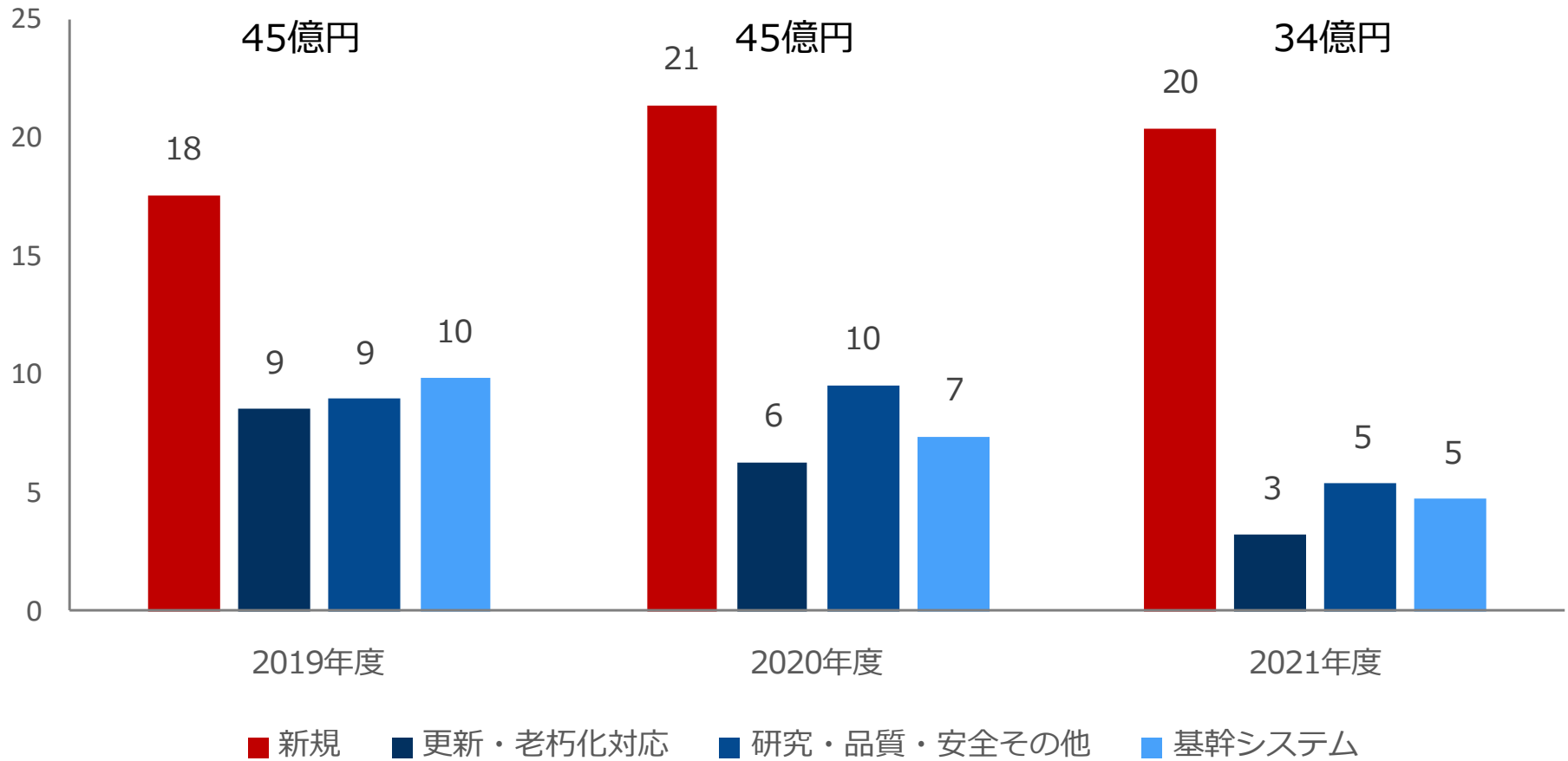
2025年度



投資計画

投資額総計は3年間で124億円を計画、うち新規投資案件は59億円

(単位：億円)

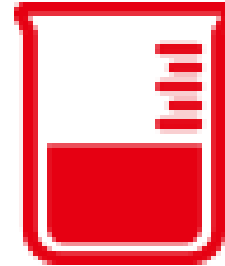


戦略分野における大型投資案件



**カーナンバープレート用
再帰反射シート**

3年間で約20億円



粘・接着剤

3年間で約11億円



3Dエンブレム

3年間で約4億円



グリーンシート

3年間で約6億円

2019年度は、新中期経営計画の初年度として、 「成長戦略に向けての足固め」としての位置付け

一昨年完成した**研究開発センター**や、昨年実施した**新組織体制**によるコア事業への集中により、シナジー効果(研究・製造・販売)を発揮し、**増収増益**を達成する。



NCI2019 数値目標

売上高

連結

510億円

2018年度対比
+4.8%

営業利益

連結

27億円

2018年度対比
+1.9%

営業利益率

連結

5.3%

2018年度対比
▲0.1%

※基幹システム刷新費用3億円含む

重点施策

- コア事業（戦略分野）の成長戦略に注力する
- 働き方改革、基幹システム刷新等による生産性の向上
- 人材育成プログラムの構築
- 有効な重大事故・災害/品質クレーム防止策の継続実施

まとめ

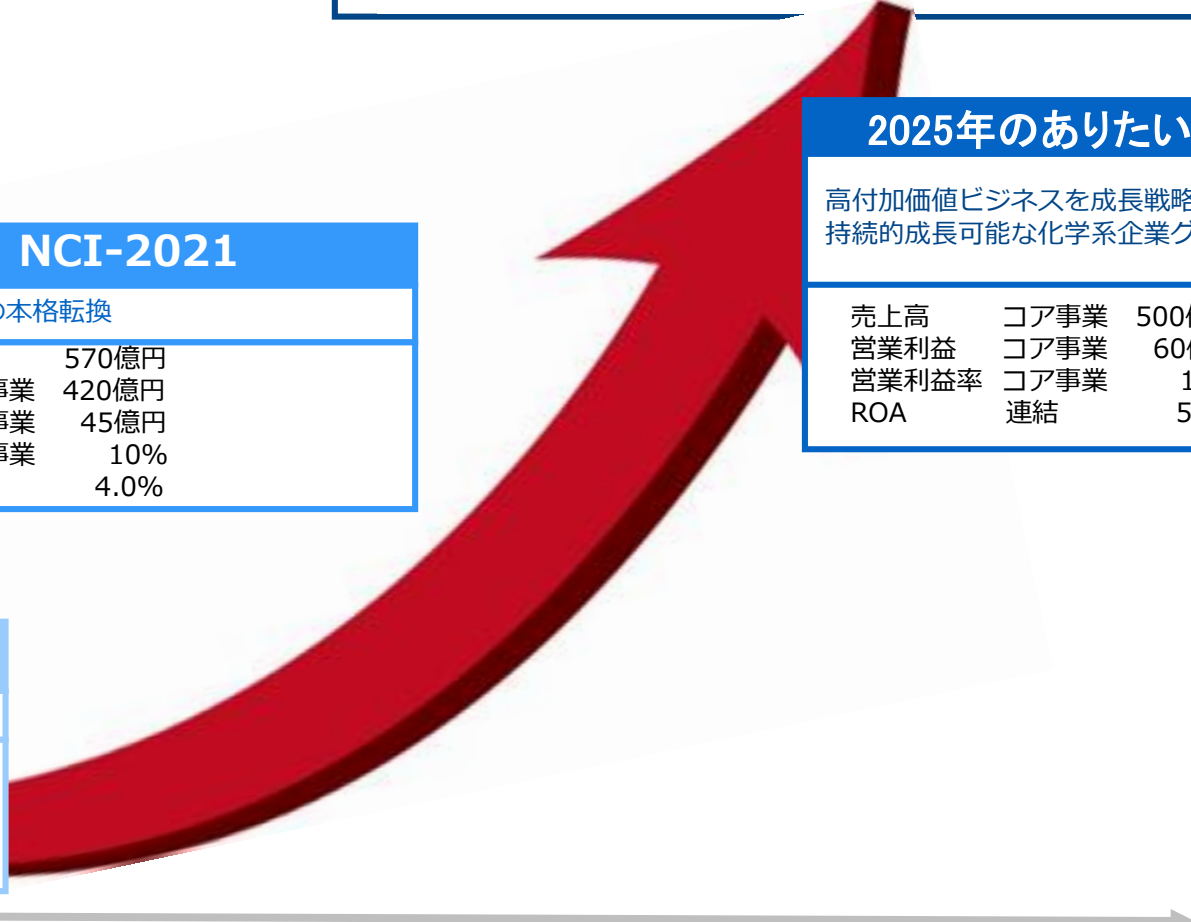
成長

Vision
キラリと光る、価値ある企業グループ

中期経営計画 NCI-2021			
成長戦略への本格転換			
売上高	連結	570億円	
	コア事業	420億円	
営業利益	コア事業	45億円	
営業利益率	コア事業	10%	
ROA	連結	4.0%	

2025年のありたい姿		
高付加価値ビジネスを成長戦略とし、持続的成長可能な化学系企業グループ		
売上高	コア事業	500億円
営業利益	コア事業	60億円
営業利益率	コア事業	12%
ROA	連結	5.0%

NCI2019		
成長戦略に向けての足固め		
売上高	連結	510億円
営業利益	連結	27億円
営業利益率	連結	5.3%



2019年

2021年

2025年

IRに関するお問い合わせ先

日本カーバイド工業株式会社

経営企画部 広報・IRグループ

電話（代表） 03-5462-8200

メール prir@carbide.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えないものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。